

第23号  
2011.3

# あきた 留学生交流



「秋田の農家民泊」に参加した留学生、日本人学生、受入農家のみなさん

秋田地域留学生等交流推進会議  
Akita Inter-regional Council for Promotion of Foreign Student Exchange

# あきた 留学生交流

第23号  
2011.3

表紙題字  
秋田大学教育文化学部  
長 沼 雅 彦 教授

## C O N T E N T S

### 1 巻頭言

秋田市長 穂積 志

2 構成員大学からの寄稿

### 2 地域貢献と国際交流

国際教養大学企画課 地域交流チームリーダー  
大倉 祐佳

### 3 自然体での温かな草の根交流を

聖園学園短期大学 学生部長  
腰山 豊

### 留学生からのメッセージ

#### 4 自然に恵まれた秋田での10ヶ月

ノースアジア大学経済学部経済学科 交換留学生  
崔洛栄 (韓国)

#### 5 留学してはじめて知った秋田の良さ

秋田県立大学生物資源科学部応用生物科学科3年  
李 昭延 (韓国)

#### 6 秋田での4年間の留学を経て

国際教養大学国際教養学部4期生  
オユンサイハン・オンドロラ (モンゴル)

#### 7 秋田は第二の故郷です

秋田工業高等専門学校電気情報工学科5年  
ティアコ ジュイモ ウォルター (カメルーン)

#### 8 ありがとう、秋田

秋田大学教育文化学部  
国際言語文化課程国際コミュニケーション選修2年  
金口ラ (韓国)

#### 9 新たなスタート

国際教養大学  
国際教養学部グローバル・スタディズ課程4年  
佐野 信子 (日本)

### 10 卒業生からのメッセージ

#### 秋田への思い

秋田大学大学院工学資源学研究所  
博士前期課程電気電子工学専攻修了  
呉 硯峰 (中国)

### 11 留学生交流事業

秋田の農家民泊 in 西木町 — 持続的交流の展開 —

### 国際交流団体等の活動紹介

#### 12 あきたのファミリー

(財)秋田県国際交流協会 (AIA)

#### 13 Think globally, act locally

— ふりかえりと 新たなであいを —

秋田県国際交流をすすめる女性の会：わびえ

#### 14 世界のリズムで平和の文化を！— 平和って？ —

秋田ユネスコ協会

#### 15 留学生や国際交流員を招いて賑やかに交流の催し

秋田地区日中友好協会・県日中女性委員会

#### 16 県内の大学に留学している学生らと交流 帰国した留学生らの友好協会と共同事業も

秋田モンゴル友好協会

#### 17 心も身体も元気になる国際交流

国際交流オープンクラス

### 18 留学生交流事業の紹介

ノースアジア大学、秋田県立大学、国際教養大学、  
秋田工業高等専門学校、秋田大学

### 23 平成22年度国際交流事業の実施状況

### 26 留学生関係資料

秋田県内留学生等の受入れの推移 (各年11月1日現在)  
住居形態別留学生数 (平成22年10月1日現在)  
秋田県内留学生等の出身国・地域別在籍状況 (平成22年10月1日現在)  
日本全体の留学生数の推移 (各年5月1日現在)  
出身国 (地域) 別留学生数 (平成22年5月1日現在)  
地方別・都道府県別留学生数 (平成22年5月1日現在)

### 30 平成22年度秋田地域留学生等交流推進会議

推進会議事要旨、運営委員会議事要旨  
秋田地域留学生等交流推進会議要項  
秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会要項  
秋田地域留学生等交流推進会議の事業費に関する申し合わせ  
秋田地域留学生等交流推進会議構成員名簿  
秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会委員名簿  
秋田地域留学生等交流推進会議運営による資金貸与制度

### 35 推進会議へのご意見・情報提供について

# 巻 頭 言



秋田市長 穂 積 志

今日の私たちの生活は、世界とのつながりなしには成り立ちません。普段、電気を当たり前のように使っていますが、発電に使う石油などの燃料のほとんどは外国から輸入しています。また何気なく食べているもの、着ているものなど、生活に欠かせないものの多くが外国で作られています。それらは海から、空から、遠い道のりを経て、日本へ、そして秋田へ届けられています。その道をたどると、留学生の皆さんの国へと続いているかもしれません。そして同じように、皆さんの国でも日本製品を目にする機会が多くあったことと思います。

このように、もののつながりが身近にある一方で、それが作られた国のことを知っているかということ、そうでもないように思います。皆さんが日本に来る前に新聞やテレビなどの報道を通じて知っていた日本は、どちらかと言えば東京のような大都市ではありませんでしたか？

秋田に留学して、皆さんの日本に対する印象は、きっと変わったことでしょう。街の賑わいは都会にはかないませんが、秋田は自然に恵まれており、車で30分も走れば街から海へ、山へと行くことができます。

そして秋田には独自の文化があります。例えば8月に行われる竿燈まつりは、日本を代表する夏祭りに数えられています。厳しい冬には無病息災や豊作を願ったさまざまな伝統行事が

行われます。また、秋田には標準語とは異なる方言を話す人が多くいます。秋田で耳にする言葉は、皆さんが勉強してきた日本語とは発音が違っていたり、辞書には載っていなかったりします。秋田に留学したことによって、皆さんは日本文化の持つ奥深さを毎日の生活の中で感じることができるのです。

皆さんが秋田で学び、感じることは、ここでしかできない貴重な体験です。そしてそれと同じように、私たちにとって皆さんと交流できることは、普段は意識しない世界とのつながりを実感し、皆さんの文化に接する貴重な機会となっています。

皆さんの留学生活が充実したものになり、皆さんが秋田と世界の架け橋として、国際社会に羽ばたくことを期待しています。

# 地域貢献と国際交流

国際教養大学企画課 地域交流チームリーダー 大倉 祐佳

4月。入寮、入学式、オリエンテーション、履修登録と目まぐるしく続く行事をこなし、留学生のほとんどが初めて足を踏み入れることになる秋田での留学生活が始まります。日本語や日本文化の学習を目標に留学してきた学生や、留学体験そのものを動機とする学生など、在籍する学生の約2割が留学生となる国際教養大学のキャンパスは、あっという間に異文化空間となります。

長くても1年、ほとんどは1学期間の留学で帰国してしまう学生たちは、ありとあらゆる機会を使って留学生活を楽しんでいます。その期待に応えるべく、大学では留学生と地域との交流活動に積極的に取り組んでいます。現在、年間200件を超える交流活動が行われていますが、この交流活動は単に地域貢献活動の数値目標をクリアするために行っている活動ではなく、年々増加している留学生に少しでも多くの交流機会を提供するために、日々開拓している活動なのです。

県内自治体と交流協定を結び行っている異文化交流事業は、平成19年度に八峰町、平成21年度に大仙市、そして今年度は男鹿市と、徐々にその活動範囲を広げています。それぞれの市町内の小・中学校等を訪問しての交流のほか、大学を児童・生徒が訪問しての交流など、双方向の交流が繰り返られるようになりました。また、地域の

伝統行事・祭りなど、地元の特徴が生かされたイベントへも多く参加しています。

最近では、秋田市内にあるサテライトセンター（カレッジプラザ内）で、留学生がその能力を活かし、英語、中国語、韓国語など外国語のチューターとして活躍しており、新たな知的交流も繰り返られるようになりました。いつもは何かをしてもらう側の留学生が、地域の方のために何かすることができる、そんな機会も提供していきたいと思っています。

大学の地域貢献という観点から始まった本学の国際交流活動は、留学生の満足度を上げるという全く異なる視点からも、本学にとっては重要な活動として位置づけられるようになっていきます。数多の留学先から「秋田」を選んでくれた学生たちが、「秋田」を留学先に選んで良かったと思えるような取り組み。地域の方々が、留学生を受け入れて良かった、楽しかったと思ってくれるような取り組み。地域の方々と留学生とを結ぶ架け橋の役目を、私たち地域交流・国際交流に携わる職員は担っているのではないのでしょうか。



代掻き初体験（雄和新波地区にて）



御所野学院高校表現科クラスに参加



大館モニターツアー



サテライトセンターでの韓国語講座

# 自然体での温かな草の根交流を



聖園学園短期大学 学生部長 腰 山 豊

私の家族は、国際交流や親善に関わりが深い。私自身は、1980年代に国立学校教員団として約1ヶ月間で5カ国の海外教育視察、同じ頃妻が秋田県派遣のオセアニア方面への約2週間余の短期海外視察、1990年代末期に長男が日米青年交流で約3ヶ月間のホームステイによる研修交流を経験している。感謝しながら、それぞれ場で貴重な体験を生かしている。

留学生交流事業での体験を思い起こせば、10余年前の冬の郷土行事の「かまくら」と「なまはげ」の見学が印象に残っている。なまはげ館での「みの」や「はばき」を身につける扮装体験は、気候の暑い国から雪国秋田にきた留学生にとっては、特異な体験として大変喜ばれた。かまくら見物の時には、長い列となっていた。観光客の皆さんに留学生引率の事情を話して飛び入り参加し、甘酒をふるまわれてとても喜んでいた。

今後の交流推進のためには、市民の各層との幅広い交流がもっとあっても良いのではないかと考える。例えば、国際交流女性の会の企画による交流の集いに保育短大の学生がボランティア参加をして、留学生の母国の子どもの遊びと日本の遊びを紹介し合うなど、子どもと学生を交えた草の根交流ができないかと、日頃考えているがいかがだろうか。国際教養大学の学生がボランティア活動で大学近隣の地域の祭典に参加し、地域の活性化にも役だっている。秋田駅に続いているアルヴェでは、各種団体主催での遊びのコーナー設定が時々見られるが、こうした機会に留学生の参加を取り込んではいかがだろうか。県内の国際理解教育の向上のためにも、交流推進会議で報告された各地の郷土色豊かな自然体での接し方が、一番留学生にとって有益となろう。



なまはげ柴灯まつり体験旅行  
(2002. 2. 9 実施)



県内在住の留学生31名が参加 前列右から2番目筆者



## 自然に恵まれた秋田での10ヶ月

ノースアジア大学  
経済学部経済学科 交換留学生

崔洛栄 (韓国)

交換留学生に選ばれ、めったに経験できない外国での生活が出来たことに心から感謝しています。私は2010年4月に秋田に来ました。韓国で大学に通いながら学生だからこそ出来る交換留学生制度に魅力を感じ応募しました。選ばれるまでは様々な過程がありましたが、秋田空港に到着した時、「やっと来られたんだな!」と安心しました。4月なのにまだ山々に雪が積もっていることに少し驚きました。

振りかえってみると、重要なことは「どこではなく誰と過ごすのか?」ということだと改めて気付きました。ノースアジア大学の職員さん達や受講した科目の先生方、また様々な国の留学生達と留学生の面倒を見てくださっている方々に温かい又クモリを感じました。

秋田は都会に比べると少し地味な感じかも知れませんが、私はその点に惹かれました。自然に恵まれた静かな環境で勉強する事やただ眺めているだけでも心が癒される景色、季節の変化を共に感じられる事など、秋田だからこそ経験出来た事が沢山あります。その中でも、最も記憶に残った事は‘農家民泊’です。

なかなか触れ合う機会がない農家の方に直接お会いして、現在の農家生活の状況や苦悩について語り合ったり、一晩泊まりながら秋田を代表する‘きりたんぼ’を留学生達と一緒に作って食べたり、また、近くの温泉にも連れて行っていただき身も心も温かい日を過ごしました。特に、秋田県内で勉強している留学生達と接し、彼らと話し合う事は、私にとって新鮮な刺激でした。‘井の中の蛙大海知らず’と言う諺その

ものでした。短い一泊二日間でしたが、また一つの宝物が出来て嬉しかったです。

私は、幼い頃に日本での滞在経験があり、現に至るまで日本語の影響をずっと受けてきました。約10ヶ月間でしたが、日本語に囲まれた環境のなかで生活することで、日本語の勉強により一層集中出来たと思います。勉強では、見逃していた表現やまだまだ足りない漢字の実力に力を入れました。また、生活しながら一番重要視したことは、イントネーションとニュアンスでした。他の勉強も勿論大切ですが、周囲の人が皆日本人だからこそ習える事はやはりイントネーションだと思い、毎日耳を傾けながら本場の方が使う日本語に少しでも近づけるよう意識しながら過ごしました。まだ一ヶ月の時間があるので、後悔しないよう充実した毎日を過ごしたいと思っています。

あっという間に留学生活が終わりましたが、私の人生の中で一番大切な思い出がここ‘秋田’で出来て心から感謝しています。今後、韓国に帰っても、秋田での経験や教訓を十分活用し、また新たな一步を踏み出したいと思っています。

いつかまた会えますように。





## 留学してはじめて知った 秋田の良さ

秋田県立大学  
生物資源科学部応用生物科学科3年  
**李 昭姪**（韓国）

‘日本に留学しています’と韓国の人に言えば、ほとんどの人は東京や大阪などの大都市での留学を連想する。私は韓国であまり知られていない秋田に留学しているが、最近は韓国のドラマ「アイリス」のロケ地になったためか、秋田のことを知っている人が多くなった。

私は、韓国の釜山の大学で1年間勉強し、2年生の時に秋田県立大学の本荘キャンパスに科目等履修生として留学し始めた。すでに日本に留学している友達は東京で生活し、同じ時期に留学した友達も東京の大学を選んでいたので、最初はなぜ私はここに来たのか、何をして過ごせばいいか全くわからなかった。

しかし、秋田に来て、韓国では特に意識していなかった人の優しさを感じる事ができた。また、学生や留学生のための様々な活動やイベントが沢山あり、韓国にいたときは参加しようと思わなかったことが、秋田では魅力的に思えた。

秋田で有名な祭り、竿燈祭りや大曲花火大会を見に行き、みんなの熱意を感じてすごく感動した。また、土田牧場、大森山動物園、男鹿水族館に行き、動物や生き物と接して自然の

大切さを学んだ。角館や本荘公園など桜の景色がすごくきれいで、出店の食べ物も美味しかった。楽しい思い出を秋田で作ることができて、誰よりも良い経験をしたと思う。そんな見所が沢山ある秋田で勉強を続け、色々体験してみたいこともあったので、編入し3年生からは県立大学の秋田キャンパスに通っている。

先日、留学生の交流会に参加してみたら、秋田には私以外にも沢山の留学生がいて、みんな秋田は寒いけど楽しいし、美味しい食べ物が多いと言っていた。

私は、この秋田で様々なことを学び経験した。県立大学の卒業までまだ1年残っているので、残りの学生生活を楽しく過ごせるように頑張ろうと思う。





## 秋田での4年間の留学を経て

国際教養大学  
国際教養学部4期生

オユンサイハン・オンドロラ（モンゴル）

中学校三年生の時初めて来日した私が、秋田に来たのは4年前のことです。秋田に来る一番の理由は、他でもなく国際教養大学でした。国際色豊かなキャンパスで、授業が全て英語で行われ、一年間の留学が義務付けられるなど、これからの国際社会が必要とする優れた人材を養成することを目的としているAIUに大変魅了されました。美しい自然の中、のんびりした秋田の綺麗な空気、心温かい人々、冬は雪がいっぱい降り、夏はとても暑くなるという激しい気候などが、どこか母国のモンゴルと似ていて、初めて来たときから地元にいるような感じがして安心したのを覚えています。それに、日本全国から集まって来た大学の仲間たちや、全世界から交換留学で来た留学生たちと一緒にキャンパスで暮らすことは、家族から遠く離れて生活するのは私一人ではないと、とても心強かったです。大学の周りにはコンビニ一つなく、イオンモールや秋田市に行くバスが2時間に一本しかない、そんなちょっと不便な環境だからこそ勉強に集中でき、大学の学生と一つの大家族みたいになり、仲が深まりました。

グローバルビジネスの幅広い知識を身につけて、国際的な仕事につくことを目標にしていた

私にとって、さらに一年間他の国で留学ができることは自分の目標に向かって大きく前進できる大変ありがたい機会でした。英語力を磨き、グローバルビジネスの専門知識を深く身につけるため、様々な人種が住む活気溢れた国—アメリカにも留学して来ました。帰国後、日本で就職活動をした結果ソニーから内定をもらい、今年の4月からまた社会人として新たなスタートを切ります。

母国のモンゴル、長く生活した日本、そして留学先のアメリカと、異なる生活習慣や文化に触れた経験を生かし、将来は世界的に活躍する真の国際人になって、モンゴルを始めとする発展途上国や新興国の発展に貢献するという、自分の夢に向かって前進していきたいと思えます。





## 秋田は第二の故郷です

秋田工業高等専門学校  
電気情報工学科5年

ティアコ ジュイモ ウォルター (カメルーン)

私は2007年に来日し、東京の日本語学校で1年間学び、2008年4月、秋田工業高等専門学校に編入しました。秋田で暮らすにあたり、気候・言葉・人間関係（人とのふれあい）等の不安がありました。

カメルーン出身の私は、初めての雪にびっくりし、嬉しく思ったのですが、どんどん雪が積もり、寒さが厳しくなり、その幸福は短時間で終わってしまいました。道路は滑りやすく何度も転び、2月は、とてもとても寒く、何もできず、冬眠しかありませんでした。その分、夏は涼しいです。でも、雪国唯一の楽しみのスキーやスノーボード等が体験でき、人生の中で、雪に親しむ秋田の生活は貴重だと感じています。

日本語を学んだ時、方言について知りましたが、秋田弁には驚きました。秋田高専の寮に入居した日、掃除のおばさんが話しかけてきました。フランス語に似た話し方でしたが、まったく分からず、カルチャーショックを受け、返事ができませんでした。秋田弁は年寄りが多く使い、寒いのであまり口を開けないで話す面白い言語だと思いました。秋田弁・若者言葉、日本語での受講・専門用語の理解など大変でしたが、「～んだべ」「～おぼんです」等を使えるようになりました。

また、秋田は自然に恵まれ観光地がたくさん

あり、北から南、四季折々楽しむことができました。角館の花見・秋田市の竿燈まつり・十和田湖や田沢湖の紅葉・横手のかまくら・男鹿のなまはげ等が心に強く残っています。

秋田では外国人がとても少なく目立ち、ジロジロ見られます。ある日、秋田駅周辺で、6歳くらいの男の子が「わぁ～、あの人、日焼けしすぎじゃない…」と、とても面白い表現で父親に話していました。最初は、とても気になっていましたが、今では平気になりました。

留学生にとって、勉学が一番大事なことです。縁あって秋田に住んでいるのですから、秋田の生活・文化・祭りに積極的に触れ、地域の人達との交流も大切だと思います。家族から離れての生活は大変ですが、先生をはじめ友達や秋田の人達が、親身に世話を下さり、とても楽しく、充実した日々を過ごすことができ、私にとって「秋田は第二の故郷」になりました。



## ありがとう、秋田

秋田大学  
教育文化学部国際言語文化課程国際コミュニケーション選修2年  
**金ロラ**（韓国）

今年で秋田で迎える2度目の冬となる。2年前に入学の面接のために初めて来た秋田の印象はただ寒いということだった。当時、秋田は韓国でそれほど知られていなかったため、秋田に関する背景知識もほとんど持っていなかった。ようやく大学の入学が決まり、秋田に引っ越してきた初日のことは今でも忘れられない。3月なのにまだ雪が降っていることや少し交通が不便であること、自転車に乗っている大勢の人々、それに秋田弁まで。今はごく当たり前のことが当時の私にとっては新鮮なショックであった。秋田に来てからの1年目の時は大変なことばかりだった。言葉がうまく通じないことや自転車の乗り方、特にきついと思ったのは冬の天気だった。強い吹雪や雪道がどうしても慣れなくて毎日のように転んだ。そういったことがだんだん精神的に疲れてきて実家に帰りたくと何度も思った。そういう弱音を吐くたびに私を心から励ましてくれたたくさんの人々がいた。初めて経験することが多くて疲れたり、私のことをただの外人さんにしか見てない人たちもいて辛い思いをしたりした。しかし、周りに私のことを本当に心配してくれる人々がいた。その人々がいてこそ、私はここまでよく乗り越えてこれたと思う。ここに来なかったら会えなかったはず。秋田に来て様々な出会いや別れがあった。一生、尊敬できる人にも巡り会えた。私は秋田の人々も好きだが、秋田の自然やお祭り、伝統も好きだ。すべて、国では経験することができないことである。竿燈祭りに初めて行った

時や秋田の緑に触れた時の感動は未だに忘れられない。

また、秋田の食べ物はどれもおいしくて、韓国の辛い物が食べられなくなったぐらいだ。

秋田では特に「空」が好きだ。秋田では快晴の日は少ないが、晴れた時の青空はとても素敵だ。何か不安なことがあっても青空を見上げると心が穏やかになる。秋田の星空もすごいと思う。今まで見たことのないきれいな星空がずっと広がっている。1度見上げるとあまりにも美しく見とれてしまい、目が離せなくなる。

私はいつも優しい人々、秋田の食べ物、豊かな自然に元気をもらう。最近では、韓国でも秋田の知名度が上がり、評判も良くなってきたというニュースを聞いた。それほどうれしいことはないと思う。秋田に来てあっという間に2年が過ぎた。秋田に来て教わったものは私の宝物でもある。それを覚えながら一步一步しっかりと前を向いて歩いていきたい。

ありがとう、秋田、好きだよ。





## 新たなスタート

国際教養大学  
国際教養学部グローバル・スタディズ課程4年  
**佐野 信子** (日本)

2008年9月、米国オレゴン州立大学への留学は始まりました。中学のとき世界へのあこがれを抱き、高校ではイギリスとニュージーランドへ、大学2年時にはブータンへ行く機会がありましたが、海外で長期間滞在するのはこれが初めてでした。

1年間の留学生活で一番の思い出は、人との出会いです。世界各地からの学生と友達になり、毎日が本当に充実していました。仲の良いメンバーは、ケニア、アフガニスタン、台湾、ネパール、サウジアラビア、ドイツ、と様々なバックグラウンドを持つ人の集まりでした。何気ない日常の会話にもそれぞれの価値観や考え方が反映されており、知らず知らずのうちに相手の価値観を否定していたり、誤解したりされたりすることがよくありました。しかし、そのたびに素直に向き合って納得のいくまで話し合い、お互いの理解をさらに深めることができました。まさに毎日が異文化理解の実践の場で、それができる友達と出会えたことは、私の一生の財産です。

冬休み1ヶ月間はアメリカ中を旅行しました。道に迷い、飛行機やバスのキャンセルなどトラブルが絶えませんでした。周りの人に助けられるたびに人々の温かさを実感しました。厳しい状況の中で自分がどこまでできるのか、それを試すことが留学の目的の一つなのではと思います。これから留学するみなさんも、自分の限界をつくらず様々なことにチャレンジしてください。

私にとって留学はゴールではなく始まりでした。留学生活で養われたチャレンジ精神・忍耐力・行動力をもって、留学後はフィリピンのスモーキーマウンテンでの生活体験やホノルルマラソンに挑戦し4時間半で完走するなど、新しいことに挑戦するスタートラインとなりました。また次の目標へ向かって、新たなスタートラインに立っています。

最後に、留学の機会を与えてくださった国際教養大学、秋田県の皆さん、常に私を支えてくれた家族や友達に、心から感謝しています。





## 秋田への思い

秋田大学大学院  
工学資源学研究科博士前期課程電気電子工学専攻修了

### 呉 硯峰 (中国)

来日して8年、その中の6年間は秋田で過ごしている。秋田大学の教職員をはじめ、秋田地区ロータリー-米山記念奨学会や日中友好協会、国際交流協会の方々など、秋田の人々の温かい支援があったからこそ、留学生生活を満喫し成長できた。心から感謝している。秋田での思い出は私にとって一生の宝物だ。

#### ・大学生活

受験のため初めて秋田に来たとき、大学の職員が親切に案内してくれて、とても心強かった。合格通知書が届いた瞬間迷わず入学することを決めた。当時東京の日本語学校で一緒に勉強していた留学生たちが、「地方より東京のほうがいいのに」と不思議そうに言っていた。しかし、私は秋田のような地方こそ、本当の日本文化を体験でき、心を静めて勉強に専念できると考えた。実際に生活してみて、秋田は期待を裏切ることなく勉強に相応しいところだった。だから、大学院も秋田大学を選んだ。もちろん、全てが順調ではなく、入学して間もなく、技術専門用語や大学教授特有のことは使いに悩まされた。2年間日本語を勉強したとはいえ、生活用語と違った次元の日本語を習得し理解することが容易ではなかった。そんな私たちのために、秋田大学は日本語の授業を設け、レポートの書き方や、新聞の読み方など大学で必要な日本語を勉強する機会を与えてくれた。また、大学院生をチューターとして起用され、留学生の生活から学業まで指導する制度も用意された。これらの助けがあったからこそ、私は速く日本語の壁を乗り越え、大学生活に馴染むことができた。

#### ・国際交流活動

性格が活発な私は秋田大学で開催された数多くの国際交流イベントや地元文化体験イベントに積極的に参加した。秋田大学は留学生に対して、様々な国際交流の機会を提供してくれている。夏には旅行、冬にはスキー合宿があり、その他、なまはげや餅つき、万灯火などの伝統行事を体験することもできる。また、私は学校の催事だけではなく、大学3年生の時、秋田県の民間大使に抜擢され、各地で母国の文化を紹介したり、母国語を教えたりして、貴重な体験をさせてもらった。そして、様々な思いで世界各地からやってきた私たちのために留学生だけの入学歓迎会と卒業パーティーも用意してくれた。そのおかげで、異国に一人での寂しさを忘れさせてくれた。

#### ・秋田のここが好き

私は秋田の冬が大好きだ。冬になると、秋田の素晴らしい自然がより一層美しくなり、その美しい自然の中で、温泉につかったり、スノーボードを楽しんだりすることが、私にとって幸せなひとときだ。最初の頃は私が先輩に連れられ、初めて温泉に入ったり、スキー場に行ったりしていたが、今は自分が先輩として後輩を連れ秋田の各観光地を回っている。よく行くのは日本一の深さを誇る田沢湖とその近くの乳頭温泉郷や、海外観光客も訪ねてくる田沢湖スキー場などの観光スポットだ。

去年の4月から留学生から一転し社会人になった。今までお世話になった日本かつ秋田の方々への恩返しとして、私ができることは長年の留学生活を通して身に付けた日本語能力又は専門知識を活かし、秋田大学の卒業生としてしっかり働き、社会貢献につながる成果を出せるように努めたいと思っている。

## 秋田の農家民泊 in 西木町

### — 持続的交流の展開 —

秋田地域留学生等交流推進会議では、「秋田の農家民泊 in 西木町—持続的交流の展開—」と題し、昨年度に引き続き秋田県仙北市西木町において、留学生や日本人学生と地域農家の方々とがグリーン・ツーリズムを通じて交流を深めました。

10月16日、17日の「農業体験ツアー」では農業体験と農家民泊を実施。参加者は栗拾い、栗の選別、小豆の選別作業、ミニ株稲作り、稲の床土作りなど、各農家でさまざまな農作業を体験しました。また、秋田の伝統料理であるきりたんぼ作り、豆腐作りなど料理体験をしたグループもありました。来日間もない留学生にとっては見るものすべてが新鮮だったようで、布団で眠ったことやイスの無い生活などにびっくりした様子がアンケートからも伺えました。また、食卓には農家ならではの地元で取れた食材をふんだんに使った料理が並び、その味にも量にもみな大満足の様子でした。

農業体験ツアー2日目の「留学生とグリーン・ツーリズムを考える会」では、それらの体験や農家民泊を通じて感じたこと、改善点について話しあい、その内容を盛り込んだ外国人のための観光パンフレットの素案を作成しました。

また、11月6日の「収穫感謝祭ツアー」では、外国人のための観光パンフレットの完成を目指して作業を行うと共に、地元の食材をいただきながらの交流会を実施しました。観光パンフレットは各農家の紹介パンフレットとなり体験した内容、料理の紹介、付近の地図を盛り込み、言語も英語・中国語・日本語など特徴あるパンフレットとなりました。完成したパンフレットはプレゼントとし、農家の方にも満

足していただけたようです。また杵と臼を使った餅つき体験では、杵の重さにふらふらする留学生もいましたが、交代で写真を撮りながら伝統的な餅つきを楽しんでいました。



# 国際交流団体等の活動紹介

## あきたのファミリー

■ (財)秋田県国際交流協会 (AIA)

「あきたのファミリー」は、秋田で学んでいる留学生を気軽に家庭に招いてひとときを共に過ごしたり、会えない時は電話や電子メールでお互いのことを伝えあったりして、留学生にエールを送りながら、それぞれがそれぞれのペースで自由に交流できる活動です。

留学生には地域の一般家庭との交流を通じて日本や秋田の習慣、文化などの理解を深めていただき、ホストファミリーにはこの事業で出会った留学生を通じて出身国のことなど様々なことを知る機会にさせていただくことで、お互いに理解を深めてもらうことを目的として平成18年度から実施しています。

平成22年度は、春と秋の2回募集を行ったところ、延べ90家族の「あきたのファミリー」と28ヶ国173人の留学生から申し込みがあり、このうち23ヶ国124人の留学生に90家族を紹介できました。

春と秋のいずれの時もファミリーと留学生との対面式を行いました。最初は両者とも緊張し

た様子でしたが、自己紹介やゲームを通じて徐々に打ち解けていき、交流のスタートを楽しんでいただけたようです。

留学生の滞在期間に長短があり、ファミリーによってはあまり交流の機会が作れなかったかもしれませんが、「ガイドブックではわからないことを知ることができた」、「帰国した学生さんからメールや手紙をもらってうれしい」、「文化・考え方の違い、言葉の勉強ができた」、「お風呂の習慣の違いがわかりました」などといった交流の感想を参加したファミリーからは寄せていただきました。

また、留学生からは、「秋田をもっと好きになった」、「日本社会は閉鎖的と学校で教わったが、実際はとても開かれていると分かった」、「日本人はみんなシャイなわけでもないと思った」、「本当の家族のように感じた」といった印象が聞かれました。

今後もファミリーと留学生の交流が広がっていくことを期待します。



春の対面式



春の交流会



秋の交流会

# Think globally, act locally

— ふりかえりと 新たなであいを —

## ■ 秋田県国際交流をすすめる女性の会：わびえ

「わびえ」が誕生してから25年。5月8日、設立記念日に「総会」を開催。記念事業として映画上映会を開催。名作「西の魔女が死んだ」を上映。来場者478名。心静かな愛情の教えが心に沁み感動を呼んだ。

多岐にわたる活動の中には特に地域における国際理解と在住外国人との交流において他団体とも連携をとりながら草の根活動を展開している。また、女子という視点から女子私費留学生への奨学支援をしている。「わびえ奨学プラン」は将来母国と日本の架け橋になりたいと勉学に励んでいる学生への贈呈事業である。過去19年間で81名の留学生に支援している。今年度は秋田大学生(ベトナム)2名。ノースアジア大学生(中国)1名・計3名に支給。奨学生曰く「大学祭でベトナム料理を作りますので是非おいでください」と、嬉しいお言葉をいただいた。

6月、交流事業として「マリア像移設にともなう慰霊祭」への参加となった。1983年5月26日の日本海中部地震で犠牲になった児童13名とスイス人女性旅行者の慰霊碑建立のた

め会員が心をつなげて募金活動を行った経緯がある。今春、落石事故防止工事に伴う移設を機に当時を偲び、慰霊の献花を捧げ冥福を祈った。25年の歳月が流れた今でもその意思が受け継がれていることは共感を覚える。

9月には「南極観測隊同行記」～地球は一つ人も自然もつながりの中で～と題し、秋田魁新報社記者・安藤伸一氏による、記念講演会を開催。南極をめぐる国際協力の在り方や地球科学の最前線などを紹介していただき、太古の地球を感じ一同感動した。

12月には秋田地区「ミニハンドinハンドさよなら2010」～笑って交流・国を越え・世代を越えて～を開催。在住外国人や留学生8ヶ国の人々と多文化交流ができた。

その他、国際協力活動として在韓日本人妻の会「ナザレ園」への支援、「幼い難民を考える会」への支援、海外医療活動への支援、国際募金活動への協力など数々の国際的な視野に立つての活動をすすめている。



わびえ交流会・マリア像を訪ねて



わびえ記念講演会



わびえ奨学プラン



ミニハンド in ハンドさよなら2010

ユネスコ New Year World Fasta 2011

# 世界のリズムで平和の文化を！

— 平和って？ —

## ■ 秋田ユネスコ協会

インド古典楽器のシタールとタブラが、低く、厳かに鳴り響く。魂を揺さぶるような不思議な音色。会場はシーンと静まりかえる。「ユネスコ・ニューイヤーフエスタ2011」の幕が開いた。

地域の中に「平和の文化」を築くことが、ユネスコ協会の主な活動の一つであるが、秋田ユネスコ協会では、各国の文化を通じて文化の多様性を学び、理解してもらうことで「平和の文化」を築くきっかけを作りたいと考えた。そこで、広い世代に馴染みやすい音楽、ダンスを通して、その目的を達成したいと思ったのが、この事業の始まりであり、今年で3年になる。

1月16日（日）、ジョイナス多目的ホールは150人の観客で埋め尽くされた。

**参加グループは、**

- 1 シタールとタブラによるインド古典音楽（日本人4人）
- 2 ネパール民族ダンス（ネパール人と日本人の2人）
- 3 モンゴルの歌と踊り（秋田大学、県立大学、国際教養大学の留学生7人）
- 4 韓国の踊り（秋田大学の留学生4人）
- 5 アフリカのリズム（日本人8人）である。

**ロビーでは、**

- ・写真家鎌田勉氏のインド、カンボジアの写真展示
- ・平和へのメッセージを来場者に書いてもらい、ボードにピンナップ

を実施。また公演後は、お茶を飲みながら出演者と語り合うコーナーも設けた。

**「平和へのメッセージ」では、**

9歳～70歳代の66人が、平和への思いを寄せてくれた。少し紹介したい。

- ・私にとっての平和は、家族がいて仲良くしているところ。（9歳）
- ・世界みんなが笑っていられること（11歳）

- ・今のように毎日3食食べて、安心して眠れること。（12歳）
  - ・戦争や差別がなくなり、飢餓問題などの解決に全世界が取り組むような、思いやりのある世界（16歳）
  - ・「平和」という言葉はすばらしいものであるが、経済的なことを除いて平和にたどり着くことは難しいと思う。でも私にとってホントの平和というのは「心の平和」であり、最も重要なことである。（モンゴル留学生）
  - ・感謝の心を持ち続けていくこと。お互いを信じられる気持ちとその努力をしていくこと。（32歳）
  - ・子どもが笑っていることが平和だと思う。子どもは未来なので、笑っている子どもが笑顔のある、平和な未来を創ってくれると思う。（40歳）
  - ・いろんな国の人それぞれの文化を認め合い、お互いに仲良くできること。（42歳）
  - ・一日一日を穏やかな気持ちで過ごせること。（60歳）
  - ・お互いを理解し合い、協調すること。（72歳）
- など多くの思いが寄せられた。

**フェスティバルの感想としては、**

- ・自分の国を知ってほしい、伝えたいというあたたかい思いが感じられ、すごくよかった。楽しかった。アフリカの迫力あるリズムに感動。交流タイムもいろんな話ができ、思っていた以上だった。（来場者）
- ・国々のいろんな文化を知ることができてうれしい。国が違い、言葉も違うけど人は同じだと思った。（韓国留学生）

今回もこのフェスティバルには秋田市立秋田商業高校、明桜高校、聖霊女子短期大学の学生がボランティアとして写真撮影や、平和へのメッセージの呼びかけやピンナップ、来場者へのインタビューなど大いに働いてくれたことに感謝。

このフェスティバルも今年で3回目。さて次年度は、どのような切り口から「平和の文化」を紡ごうか。



# 留学生や国際交流員を招いて賑やかに交流の催し

## 秋田地区日中友好協会・県日中女性委員会

秋田地区日中友好協会、秋田県日中友好協会女性委員会は年間4つの行事を秋田地区中国人留学生学友会と連携して実施し、留学生や国際交流員との交流を深めている。

4つの行事とは、1つ目が留学生が大学などに入学して最初に参加する「お花見」で、今年度は秋田市の一つ森公園で昨年4月25日（日）に行った。焼肉や豚汁で酒類やジュースを飲みながら交流し、日本の伝統文化ともいえる「花見」を楽しんだ。

2番目は、夏の「地引き網交流会」。大陸育ちで海を知らない留学生が多いことから企画したもので、これは7月24日（土）潟上市の出戸浜海水浴場で開催した。今年はいいにく波が高く地引き網引きはできなかったが、スイカ割りや宝探しなどに興じ、海の家では貝殻を使ったアクセサリーを製作。お昼は焼肉パーティーで盛り上がった。波が高かったものの海水浴をする留学生もいて大変楽しい1日となった。

3つ目は中国の建国を祝う「国慶節を祝う会」で、10月2日（土）秋田市内のホテルで開いた。この会では、留学生達の学友会の役員改選もあることから参加者が多い。女性委員会のメンバーが中心になって集めたプレゼントをビンゴゲームで商品とするといった企画もあり大賑わい。また、秋田県日中友好ソングの「友好の翼」が初めてお披露目された。

そして4つ目が、中国で行われている新年を祝う「春節」（暦の元旦に併せて実施）を共に楽しもうという催し。年が明けた2月11日（金）に秋田市内のホテルで実施。新春を奏でる琴の演奏や女性委員会の有志による隠し芸、カラオケなどで県日中友好協会の皆さんと留学生が交流。

参加者は、4つの事業とも100人位で、日本人参加者と留学生やその家族、国際交流員などでそれぞれ半数ずつ。留学生達からはいずれの事業も「開催を楽しみにしている行事」と大変好評を得ている。



4月に行われた花見、一つ森公園



国慶節を祝う会、日中学生的の合唱



7月の網引き、波が荒く浜での西瓜割り競技



中国市民親子の前で女性委員会のコーラス

# 県内の大学に留学している学生らと交流 帰国した留学生らの友好協会と共同事業も

## ■ 秋田モンゴル友好協会

現在（2月1日）、県内には秋田大に4人、国際教養大に6人（正規学生2人、交換留学生3人、正規学生の家族で聴講生1人）、県立大に1人の合計11人のモンゴル人留学生が暮らしている。当協会はこの留学生との交流、支援を軸にして、モンゴルとの友好を促進している。

具体的には4月、9月に新しい留学生が県内入りするので、協会会員有志と留学生全員に参加を呼び掛けて焼肉パーティーなど懇親会を開く。また、会員の自宅に留学生を招いて食事を共にしたり、日本の伝統行事を見せたり、モンゴルには無い海や果樹園、養魚場へ案内したりする。留学生が県内を見学するなどの場合サポートする一などで、昨年もこうしたことを中心に行った。

一方、昨年は9月初旬、協会会員の有志がモンゴルのウランバートルを訪問して、一昨年ウランバートルに組織された「モンゴル秋田友好協会」と会合をもった。この協会は県内に留学経験をもつ人々と一昨年湯沢市に民泊しながら研修した国立農業大学の教員たちが立ち上げたもので、国に登録した団体。

会合には、協会から湯沢支部長の黒田務常任理事ら3人と、たまたま国際会議でウ市を訪れていた千葉康弘理事が出席したが、席上、今後も秋田との交流を積極的に進めたいということで、今夏、大学生を中心とした10数人規模の研修生を秋田に送る計画があるから引き受けてほしいという要望が出た。協会も受け入れを前提に準備する。また、秋田の人でモンゴルで事業を展開したいということなら、モンゴルでの行動を全面支援するので、ぜひ下見に来てほしいという提案もあって、これも協会でも実現を目指すことになった。

さらに、留学生との交流といえば、今年3月まで秋田大専攻科に留学していたバトムク・ドウジバウウ（バウウ）さんと、やはり同大に留学し一昨年3月卒業帰国していたスガル・ミヤグマグスレン（ミーガ）さんが9月1日、ウランバートルで結婚式を挙げたが、これにも協会から池田謙吉事務局長ら3人が代表して参列した。

留学生支援という小さな行動がしっかりと根を下ろし、両国の交流が深まっているのだと思っている。

なお、湯沢市にはこうした留学生、研修生との交流をサポートしようと「湯沢市国際友好協力会（奥山久次会長）」が組織され、今年は当協会と共同で、県内のモンゴルからの留学生を『犬っこ祭り』に招待ということになっている。



当協会とウランバートルの「モンゴル秋田友好協会」の会合が開かれた際の記念写真。見覚えのある人がいっぱい。



結婚式で民族衣装で正装したバウウ・ミーガ夫妻を祝福する当協会の代表

# 心も身体も元気になる国際交流

## 国際交流オープンクラス

1990年9月に発足した草の根の国際交流ボランティアグループ「国際交流オープンクラス」は、「アット・ホームで、いつでも、だれでもが参加でき、ひらかれていること」【オープン】をモットーにしています。

国際交流・国際教育が今日ほど進んでいなかった20数年前に、秋田在住の日本語を母語としない外国人たちに日本語を教える中で、「覚えた日本語や秋田弁をもっと使いたい」「自国の生活や習慣を伝えたい」「味噌汁の作り方が知りたい」「巻き寿司を教えてほしい」「料理を紹介したい」「自国の手芸を教えたい」という受講生たちの声から、異文化理解・国際交流

の活動を行ってきました。

今年度も〈私の国・あなたの国シリーズ〉のトーク&トーク「ラオス編・インドネシア編」、「笑って心も身体も元気！笑顔は世界の共通語」の心が暖まる交流を行いました。

これまでの53カ国の外国人の人達との出会い・ふれあいは、目に見えない財産・パワーとなっています。これからも、「心」と「心」の交流を大事にしながら、国籍を越え、お互いの国々の文化・生活習慣・考え方を共有し、心が豊かで、元気になる国際交流を続けたいと思います。



# 留学生交流事業の紹介

## ■ ノースアジア大学

ノースアジア大学では、①交換留学生の学部への受け入れ、②留学生別科での日本語教育、③国際センターの語学研修を交流事業の柱に置いています。

交換留学について、本年度は韓国の慶熙大学校から2名、台湾の真理大学から3名が、語学の能力向上、異文化理解、経済・経営、法律、観光に関する専門知識の習得を目的に本学を訪れています。いずれの学生も語学に堪能で、短期間のうちに講義にも慣れ、優れた成績を修めています。上記の2大学には、本学からも学生を派遣しており、留学を終えて帰国した学生たちは、新しい世界観を得るとともに、勉学にも就職活動にも意欲的に取り組んでいます。また、留学生への生活・学習面での支援にも積極的にかかわっています。

留学生別科の学生たちは、日本語検定N1・N2の取得や、大学への進学を目標に秋田を訪れています。来日当初は、母国の仲間同士で固まり、教室は「外国」になってしまいがちですが、次第に個人が独自の学習スタイルを確立しているように見受けられます。それを早期に自分のものにした別科生は、検定でも優れた成果を残しています。そうした語学学習のみならず、別科生たちは、秋田栄養短期大学の学生たちとの合同調理実習、大学祭での各国料理の販売などを通して、日本の学生たちとの交流にも努めています。また、秋の紅葉狩りや、年末のクリスマスパーティーなどを通じて、本学の教職員や、学部の留学生との絆も深めています。

今年度の新規交流事業として始まった語学研修には、韓国の培材大学校と慶熙大学校の学生が参加しました。サマースクールには培材大学校から9名が、ウインタースクールには慶熙大学校から17名が秋田を訪れ、日本語講座、竿燈祭、華道・茶道、秋田県の景勝地めぐり（角館、田沢湖、男鹿半島等）、ホームステイ、スポーツ（スキー、スケート等）などを体験しました。今後、本学の国際交流の大きな柱となっていくものと思われます。

こうした留学生交流事業において、アジアやその他の国々の若者が、首都圏や大都会とは一味違う、自然の美しさや地方の人々の暮らしに触れ、ステレオタイプの日本イメージとは異なる、「生きた日本」を実感してくれることを願っています。と同時に、彼らが、将来の日本や秋田の交流の架け橋になってくれることを期待しています。



# 地元の高校生との鳥海登山

## ■ 秋田県立大学

留学生交流事業として、由利本荘市のシンボルである鳥海登山を8月27日に実施しました。参加者は約360名で、本学からは日本人学生を含めて16名（留学生は10名）が参加しました。

この事業は、由利本荘市矢島にある県立矢島高等学校が毎年実施しているもので、同高校及び矢島中学校の生徒が参加する恒例行事であり、今回は地元高校生・中学生との交流を図ることを目的として本学の学生も参加しました。

これまでも留学生交流事業については、由利本荘市の名所探訪や県内の伝統行事への参加など、定期的に企画・実施していますが、鳥海登山を実施するのは初めてのことです。

開催にあたって、県立矢島高等学校の校長先生他、地元関係者から事前の準備を始め、登山指導及び安全確保など、多大なご協力をいただきました。

開催日は天候にも恵まれ、朝8時ころから矢島口から山頂を目指し、午前11時30分頃に山頂に到着しました。参加した留学生は登山の疲れもありましたが、日本百景の一つに数えられる鳥海山の風光明媚な景色を堪能できたことや登山を無事終えたことの安堵感で皆満足しているようでした。

鳥海山を始めとする山々は由利本荘市民であれば毎日見る景色ですが、準備の問題などから実際に留学生が登山を体験できる機会は殆どありません。参加した留学生からは、「とても楽しかった」、「頂上に着いたときの達成感がすばらしかった」、「以前から鳥海山に登ってみたいと思っていたが、実現できてよかった」などの感想が聞かれました。また、地元高校生・中学生からも県立大学の留学生と一緒に交流ができてよかったという多くの感想をいただきました。

留学生交流事業は、地元住民との交流があってこそ成果が得られるのだと改めて感じました。今回参加した留学生が母国へ帰国後、鳥海登山を日本での土産話の一つとして伝えることにより、日本への理解も深まると信じています。今後も留学生交流事業は単なる観光イベントではない、交流・体験型のものを企画していきたいと思えます。



# Meet the People in Akita

## 国際教養大学

国際教養大学では、これまで八峰町および大仙市と国際交流に関する協定を結び、留学生の派遣、両市町の児童・生徒の大学訪問など双方向の交流を進めてきましたが、今年度は新たに男鹿市とも協定を結び、さらなる活発な交流活動を進めています。このほかにも、県内の小学校・中学校との英語活動を中心とした交流や、田植え・稲刈り、ヤマハゲ、餅つきなど地域の方々との交流へも積極的に参加しています。在籍する留学生数も昨年度より増加し、秋田での留学体験をいかに実りあるものとするのか、試行錯誤を繰り返しながらいろいろな取り組みに挑戦しています。

### 【男鹿市交流プログラム】

平成22年5月に国際交流に関する協定を結び、男鹿市内の小学校で2回、本学で1回、留学生との異文化交流活動を行いました。



### 【雄和地区との交流】

大学のある秋田市雄和地域の方々とは、田植え・稲刈り、干し柿作り、ヤマハゲなど、年間を通して交流を図っています。



### 【ハロウィーン・クリスマス】

毎年、幼稚園・保育園や小学校で行われるハロウィーンやクリスマスなどの季節イベントに、留学生が参加しています。今年度も、10人以上のサンタクロースを送り出しました。



### 【モニターツアー・観光イベント】

県内各地で行われている地域おこしのためのイベントにも、留学生が参加しています。今年度は大館や能代でのモニターツアー、角館の観光キャンペーンなどに参加しました。



# 秋田工業高等専門学校国際交流について

## ■ 秋田工業高等専門学校

本校は、今年度から国際交流に関して、組織体制を確立し、国際交流に係る業務の円滑化を図る目的で国際交流室を組織し、海外協定大学との交流に係る業務や新規協定締結に向けての業務を行っています。

まず、国際交流室が新しく組織された平成22年度の国際交流に関する主な活動について2点報告させていただきます。

1点目は、本校初の試みとして行った、海外協定校であるフランスのルールA技術短期大学への学生派遣です。物質工学科5年、環境都市工学科5年、そして専攻科の環境システム工学専攻1年の3名の学生を派遣しました。全員とも海外渡航が初めてのため、非常勤講師によるフランス語講義を開講したり、海外でのマナーについてなど、準備を重ねました。留学を終え、無事帰国したときはとても安心しました。

2点目は、海外大学教員による本校への訪問です。11月には、フィンランドのヘルシンキ・メトロポリア応用科学技術大学、1月には、同国トゥルク応用科学大学から教員が訪問しました。校長との国際交流に関する情報交換を行い、校内施設・授業風景の見学も行いました。また、本校学生・教職員に対する大学紹介も行い、学生から英語による質問が出るなど、皆真剣に聞き入っていたようでした。

日常生活においても様々な国の人々や外国文化と接する機会が増え、世界的な視野での行動が求められる時代になってきています。このような時代の流れに乗り、本校においても、国際交流活動を活発に行い、国際性豊かな人材の育成に寄与し、秋田の国際化に貢献していきたいと思えます。



# 日本の伝統行事・文化体験

## ■ 秋 田 大 学

### 【文化体験事業「康楽館の芝居見学」】

平成22年6月26日、国の重要文化財に指定されているルネサンス風様式の小坂鉦山事務所を見学した後、創建100周年を迎えた小坂町の康楽館にて下町歌舞伎の観劇を鑑賞しました。康楽館では、目の前で演技する役者さんから時折振られるアドリブに大笑いしながら、盛んに拍手を送っていました。



### 【留学生等交流実地見学旅行（大阪・奈良・京都）】

平成22年9月25日～27日、2泊3日の行程で、秋田大学の留学生31名が大阪・奈良・京都を巡る旅を楽しみました。初日は大阪城天守閣と法隆寺を見学。2日目は平城遷都1300年祭、東大寺、清水寺を見学。最終日は東映太秦映画村の見学後、嵐山で京都嵯峨料理を味わいました。



### 【留学生体験事業「日本のもちつき」】

平成22年12月22日、大学会館1階食堂を会場に年末恒例の「もちつき」を実施しました。当日は、本学留学生・教職員のほか、日頃、留学生がお世話になっている留学生会館や国際交流会館のある地域の方々など約50名が参加しました。

留学生は地域住民の手を借りながら、実際に餅をついたり、お供作りの体験をし、お正月を前にした日本の伝統行事に直に触れる機会を楽しんでいました。



### 【秋田の冬の行事体験旅行「森吉山の樹氷」】

平成23年1月22日、秋田大学と秋田高専の留学生38名が参加して実施しました。打当温泉「マタギの里」でのマタギ語りと焼だまっご鍋の昼食後、阿仁スキー場に移動し、北秋田市観光協会の樹氷案内人の説明により、樹氷見学を行いました。



### 【留学生スキー合宿研修会】

平成23年2月19日～20日、田沢湖スキー場を会場に留学生スキー合宿研修会を実施しました。

初日はグレンデ上で悪戦苦闘した留学生も、2日目にはインストラクターの指導の成果もあって、徐々に斜面を滑り降りられるようになり、スキーの楽しさを実感できたようでした。また、田沢湖高原雪まつりの期間中であつたため、紙風船上げなどの地元の冬まつりを見学することができました。

# 平成22年度 国際交流事業の実施状況

## 地方自治体・国際交流団体

No.	事業名	主催団体名	開催時期	参加者数 ( ) 書きは、 参加留学生数	事業の内容	
1	海外技術研修員等受入事業		9月11日～12月18日	1 (1)	友好交流国等から研修員を受入れ、県内大学、企業等で研修を行う。	
2	ホームステイ受入支援事業 ～あぎたのファミリー～	秋田県	通年	【春期】 111 (67) 【秋期】 149 (108)	留学生が日本の一般家庭に短期間滞在、交流する機会を提供し、日本の習慣・文化・地域の現状について理解を深めるとともに、交流を通じて秋田での生活をより有意義なものにする。 ※県から(財)秋田県国際交流協会への委託事業	
3	南米架け橋事業		10月4日～11月28日	1 (1)	在南米県人会の推薦を受けた人材を研修員として受け入れ、県人会の後継者として育成する。また、県民との交流活動を行うことで地域の国際化を促す。	
4	環日本海圏留学生秋田発見体験ツアー事業(注:主催は秋田県環日本海交流推進協議会友好交流部会)		11月以降	環日本海圏出身留学生30名予定	将来の環日本海交流を担う県内留学生を対象に、本県の文化・産業を紹介する施設や観光地等を案内し、同地域の若い世代の秋田県に対する理解向上を促進する。	
5	A・la・カルチャー交流会		7月4日、12月5日	51 (5)	文化紹介サポーターが自国の七夕とクリスマスを紹介	
6	あぎた国際交流フェスティバル2010	秋田県国際交流協会	10月31日		国際交流団体等による活動紹介やステージパフォーマンスなど	
7	あぎたのファミリー【県からの受託事業】		春・秋	264 (173)	ホストとなる県民と留学生が、ひとときを共にしたり電話やメールでやり取りをするなど、それぞれの都合に合わせて行う友好交流	
8	蘭州市訪問団受入事業	秋田市	5月25日～5月26日	7	蘭州市長はじめ7人が秋田市を訪問。平成23年度～25年度までの交流合意書に署名した。	
9	ウラジオストク市訪問事業		6月30日～7月3日	9	ウラジオストク市建都150周年記念行事に出席。	
10	キナイ半島郡交流訪問団受入事業		8月1日～5日	12	交流合意都市のキナイ半島郡の市長はじめ12人が秋田市を訪問。竿燈まつりや県内観光地を視察。	
11	秋田パッサウ姉妹都市交流事業		8月21日	700	パッサウ市との姉妹都市交流事業としてトランペットとバイブオルガンの演奏会をアトリオン音楽ホールで実施。	
12	日韓交流まつり		10月2日～3日	7万	ソウル市で行われた日韓交流まつりに参加し、竿燈を披露。	
13	蘭州市文化交流事業		9月27日～10月26日	470	蘭州市から講師1名を招聘し、牛肉麵料理講習会等を開催。	
14	蘭州市医療研修員受入事業		10月15日～12月15日	2	蘭州市から医療研修員を受け入れ、市立秋田総合病院で研修を行う。	
15	医療友好交流事業		未定	2	蘭州市から医療関係者を受け入れ、医療状況視察、医療技術交流を行う。	
16	英語指導助手活用事業		通年	19	英語を母国語とする外国青年を招致し、英語教育におけるコミュニケーション能力の向上のため、市内中学校及び高等学校に英語指導助手(ALT)として派遣。	
17	日本語講座		能代市	4月～23年3月	40	市内に住んでいる外国人を対象に、日常会話・能代の歴史文化を学ぶ。
18	日本語指導ボランティア養成講座		4月～23年3月	20	市内在住か市内に勤めている人を対象に日本語指導法の基礎を学ぶ。	
19	ふれあい交流講座		4月～23年3月	45～400	市民と講座参加者の交流会を行う。	
20	平成22年度青少年ハンガリー友好交流訪問団派遣事業		由利本荘市	9月26日～10月1日	17	由利本荘市在住の中学生15名と引率2名が友好交流都市であるハンガリーヴァーツ市を訪問しホームステイを通じ交流を行った。
21	中国・無錫市国際友好都市交流訪問団派遣事業		10月16日～21日	3	中国無錫市の国際友好都市交流会に市職員3名が出席。	
22	南米訪問事業		10月20日～11月1日	4	市長、市議会議長をはじめとした市職員が由利本荘通分会総会、ブラジル秋田県人会50周年記念式典に出席、パラグアイ・アルゼンチンへの移住者も訪問する。	
23	国際児童絵画交流展		11月下旬		友好交流都市である中国無錫市、ハンガリーヴァーツ市、ベルギーブリュージュ市、由利本荘市の児童の絵画を展示する。	
24	日本語教室	毎週金曜(年44回)	約20	在住外国人が日常生活に必要な日本語の会話並びに読み書きを習得することを目的とする。また、生活等に関する相談にも応じ、日本での生活順応を支援する。		
25	ホームステイ受入	横手市	・10月9日～11日 ・23年2月13日～15(予定)	各10	明海大学(千葉県浦安市)に通う留学生を市内の家庭にホストファミリーとして受け入れてもらい、相互の国際理解を図る。また、留学生には、秋に地域農産物の収穫、冬に地域行事を体験してもらい、地域のPRと活性化を図る。	
26	大森中学校生徒海外研修事業		11月21日～27日	中学生10 引率2	研修先:マケラガールズハイスクール(中高一貫の公立女子高、オーストラリア・シドニー市) 内容:2泊3日のホームステイをしながら同校へ登校し授業に参加交流を図る。	
27	八峰町国際交流事業	八峰町	1月～12月	3589(170)	国際教養大学と八峰町が結んだ「国際交流に関する連携プログラム協定」に基づき、町内小中学校・こども園・地域住民と国際教養大学留学生との交流や町内の家庭においてホームステイを行う。	
28	国際教養大学との異文化交流事業		通年(3期)	300	大仙市の小学校児童及び中学校生徒並びに幼稚園及び保育園児が、国際教養大学(AIU)の留学生と交流(来校・来園及びAIU訪問)し、直接異文化に触れることで異なるものを受容する心やコミュニケーション能力を養い、国際社会に対応できる人材を育成することを目的とする。(昨年度実績276人の留学生と交流)	
29	友好交流都市韓国唐津郡との交流事業		4月8日～12日		韓国唐津郡機池市の大綱引き・東アジア綱引きシンポジウムへ参加 友好交流都市韓国唐津郡からの招へいにより、大仙市副市長・刈野大綱引き保存会員等が訪韓し交流を深める。	
30	韓国LABO青少年スタディツアー	大仙市	8月19日～23日		【大仙市国際交流協会事業】 韓国LABOとの交流事業。韓国LABOが主催する2泊3日のキャンプやホームステイをとおして、コミュニケーション能力を養うと共に異文化理解を深める。	
31	北ソウル青少年受入事業		7月26日～29日 8月2日～5日		韓国青少年北ソウル連盟から派遣されるソウル市の小中学生を大仙市で受け入れ、学校交流・ホームステイ・日本文化体験を行う。	
32	韓国唐津郡青少年交流事業(受入)		8月19日～23日		「韓国唐津郡との間における友好交流に関する協定」に基づき、大曲中学校生徒8名と引率3名が韓国唐津郡を訪問し、学校交流・ホームステイ・韓国文化を体験し異文化理解を深める。	
33	北ソウル青少年受入事業		23年1月上旬		韓国青少年北ソウル連盟から派遣されるソウル市の小中学生を大仙市で受け入れ、学校交流・ホームステイ・日本文化体験を行う。	
34	韓国LABO青少年受入事業		23年1月下旬		【大仙市国際交流協会事業】 韓国LABOから派遣される青少年が大仙市を訪問する。協和小学校との学校交流やホームステイ・日本文化体験をとおして参加者が異文化理解を深める。	
35	日本語教室(鷹巣教室)	北秋田市 教育委員会	月に3～4回 (第1・3・4日曜)	12	外国から嫁いできている方々への日本語習得を目的とした教室を開催。	
36	日本語教室(森吉教室)		月に2～3回 (隔週火曜日)	8	外国から嫁いできている方々への日本語習得を目的とした教室を開催。日本文化の学習も数回開催。	
37	国際教養大学との交流事業	男鹿市	①5月21日～22日 ②11月19日～20日 23年1月13日	1.60 2.50 (10)	平成22年5月10日に男鹿市と国際教養大学が結んだ「国際交流に関するプログラム」協定に基づき、市内の小・中学生が国際教養大学の留学生との交流事業を行う。留学生との交流を通して外国語や外国の文化に理解を深め国際感覚の優れた人材育成を目指す。また、留学生が市内にホームステイ等を行うことにより、市民との相互交流を深め、男鹿の自然・文化・歴史に触れることで、多方面に男鹿を発信し、本市の活性化につなげていくことを目的としている。 1.交流会・ホームステイ 2.大学訪問	

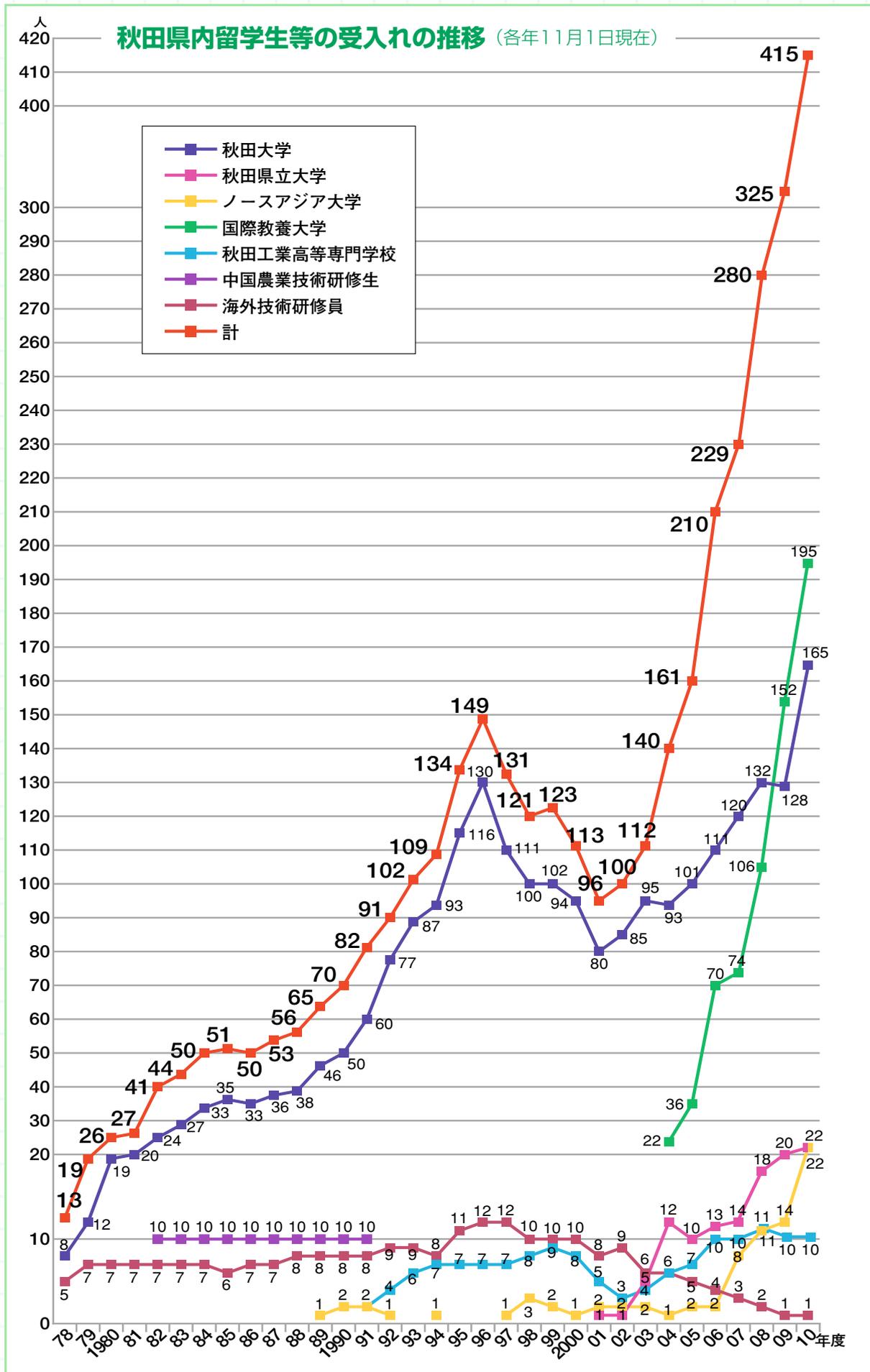
No.	事業名	主催団体名	開催時期	参加者数 ( )書きは、 参加留学生数	事業の内容
38	外国語指導助手招致事業	男鹿市	通年	2	英語指導助手 (ALT) として外国青年を招致し、市内の小・中学校児童生徒の語学力の向上と国際理解教育の推進を図る。
39	中学生海外研修派遣事業		23年3月 (10日間)	7	オーストラリアへ「21世紀を担う男鹿の人づくり」を目指し、国際理解と国際協力の精神を培うため中学生を派遣する。
40	日本語教室		毎月第2・4土曜日 年間28回 開催予定	約8	在住外国人が日本語の書き方、読み方、風習、日本文化等の学習を目的とする。
41	国際理解 アフリカからの贈り物 ～知り・考え・行動するために～	ユネスコ協会	4月17日	50	秋田商業高校・ユネスコスクール班によるアフリカスタディツアー (ウガンダ) 報告会。 アフリカ東部ウガンダでの出会いや訪問先の様子を紹介。
42	外国人による日本語スピーチコンテスト &見て・聞いて・知ろう 世界の暮らし!		11月17日	12	12名のスピーカーが、メインテーマ「秋田に暮らして、今私が思うこと」をテーマにスピーチ。
43	ユネスコ・ニューイヤーフエスタ ～世界のリズムで平和の文化を!～		23年1月16日		世界の多様な文化をあるがままに認め、交流しあうのが国際理解の第1歩という思いから始めたニューイヤーフエスタ。リズムを通していろいろな国の文化に触れ、理解し合い、平和を築ききっかけにしたいという趣旨で実施。
44	協会定例理事会	日中友好協会	1月30日	21	今年の事業計画を協議
45	春節を祝う集い		1月30日	155 (54)	中国の正月を祝う会=会食、ミニコンサート、ビンゴゲーム、カラオケなど
46	秋田地区協役員会		4月10日	8	花見の打ち合わせ
47	定期総会		4月15日		会長選出、事業、予算を審議
48	桜を楽しむ会		4月25日	70 (40)	バーベキューと折箱で野外宴
49	地区協会代表者会		4月29日	8	定期総会の打ち合わせ
50	蘭州会総会		5月26日	45 (8)	蘭州市訪問経験者らの懇親会
51	秋田地区協役員会		6月26日	7 (2)	海辺の集いの打ち合わせ
52	事務局会議		7月2日	5	中国訪問団の実施で協議
53	海辺の集い		日中友好協会	7月24日	150 (70)
54	浴衣茶会	8月28日		18 (9)	浴衣で茶道を体験してもらう
55	秋田地区協役員会	9月7日		8	国慶節の準備打ち合わせ
56	事務局会議	9月10日		7	中国訪問団の準備
57	国慶節を祝う会	10月2日		160 (75)	中国の建国を祝う。ホテルで会食、ビンゴゲーム、カラオケほか
58	中国訪問	10月14日		22	(財) 日中友好協会設立60周年で全国規模で北京へ
59	定期総会	5月30日		42 (10)	当協会定期総会
60	竿灯に案内	モンゴル友好協会	8月4日	12 (8)	竿灯見学
61	大曲の花火		8月28日	5 (2)	元留学生の結婚式に協会有志が訪問して出席、また前年来訪の研修団員と懇談のため訪問
62	2010国際シンポジウム		10月16日	130 (6)	AIU主催・駐日モンゴル大使の講演
63	留学生送別会		3月予定		秋大2名、AIU2名の卒業生の送別会
64	2010年度総会・研修会 (映画上映)	秋田県国際交流をすすめる女性の会(わびえ)	5月8日	総会74 映画478	テーマ学習 Think globally, act locally. ～ふりかえりと新たなであいを!～ 映画「西の魔女が死んだ」在住外国人や一般市民との共有の機会を得た。
65	「わびえ交流会・マリア像を訪ねて」		6月8日	44	日本海中部地震で犠牲になったスイス女性旅行者の慰霊碑を「わびえ」が建立した経緯があります。25周年を迎え慰霊のための献花を行い冥福を祈った。
66	慶州ナザレ園協力チャリティ講演会参加 一流のままに		7月4日	10	在韓日本人妻についての理解・支援 ―朝鮮王朝最後の皇太子妃季方子の生涯―
67	「わびえ奨学プラン」贈呈式		7月8日	17 (3)	県内の私費女子留学生に対し奨学金を支給 (わびえ奨学基準による)
68	第7回日米協会国際シンポジウム		8月7日	9 (全250)	シンポジウムでは人材と日米交流について議論
69	テーマ学習講演会 ～地球は一つ 人も自然もつながりの中で～		9月4日	90 (6)	「南極観測隊同行記」講師 秋田魁新報社報道部 安藤伸一記者 南極をめぐる国際協調の在り方や地球科学の最前線などを解説
70	国際交流 (大山市) グランドゴルフ大会		10月3日	18 (16)	グランドゴルフを通して在住外国人との交流
71	大山市「秋の稔りフェア」		10月23～24日	10	地域活動への参加 ブース出展 チャリティ活動
72	「わびえ奨学生との生活相互理解講座」		10月30日	25 (7)	講師 ベトナム留学生 中国留学生 ベトナム・中国の家庭料理の実習 (秋田市地区)
73	「あきた国際フェスティバル2010」		10月31日	15 (参加 来場500)	県国際交流協会主催で40団体参加県内在住外国人と一般市民との交流 ブース出展・パネル出展
74	「米まつり」協賛参加		10月30日～11月1日	36	地域活動への参加 (由利本荘市) ブース出展、チャリティ活動
75	「ハーモニープラザまつり2010」～地域を拓く参画のチカラ～		11月12日～13日	20 (来場者687)	他団体との連携を深めながら楽しい交流の場をつくる。 パネル展示、ブース出展、チャリティ活動
76	ミニハンドinハンドさよなら2010		12月23日	57 (26)	～笑って交流・国を超え・世代を超えて～ お国紹介など8カ国参加
77	進めよう!新たな出会いを わびえトーク 「モンゴルの生活習慣について」		23年3月10日	43 (7)	モンゴルの結婚式を通して異文化を学ぶ 講師 秋田モンゴル友好協会事務局長・池田謙吉さん
78	第18回ひなまつり交流会		23年2月27日	55 (33)	由利本荘市の伝統行事の「ひなまつり」を体験、イベントを通して在外外国人との交流
79	笑って 国際交流の輪・和・話	4月5日、4月17日、 5月8日、7月17日	71 (8)	笑いヨガ&トーク	
80	サミットの地 北海道へ	6月20～22日	3	県外視察研修	
81	フェスティバルでエンジョイ	10月31日	9 (2)	異文化交流 (ブース参加)	
82	あなたの国・私の国 ウガンダ編	12月11日			
83	中国の家庭料理に挑戦	23年1月予定			
84	笑って2011年を	12月11日			
85	あなたの国・私の国 ラオス編	23年2月予定			

No.	事業名	主催団体名	開催時期	参加者数 ( )書きは、 参加留学生数	事業の内容
86	国際ソロプチミスト秋田留学生援助	国際ソロプチミスト秋田	4月～1年	(1)	国際ソロプチミスト秋田は継続事業として1989年に奨学金基金を設立。留学生奨学金を秋田大学留学生へ月額30,000円を1年間援助している。今までベトナム難民医学生・台湾・パプアニューギニア・中国・イラン・モンゴル留学生を援助し、今年はベトナム出身のグエン・バン・キウ氏を援助している。
87	SI秋田各賞表彰並びに寄付金贈呈式		4月20日	会員・招待客 40 (1)	奨学金留学生としてキウ氏を式典にて紹介。
88	納涼例会		8月24日	会員35(1)	納涼交流会 キウ氏がベトナムの歌を披露
89	あきた国際フェスティバル2010		10月31日	会員12(1)	あきた国際フェスティバル2010に参加しブースを出展し交流 キウ氏もブースにお手伝いとして参加
90	新年例会		23年1月17日	会員38(1)	新年交流会
91	「あきたのファミリー」4家族ホームステイ・ホームビジット受け入れ	言語交流研究所ヒップファミリークラブ	各家庭随時複数回	11 (11)	モンゴル (3) 台湾 (1) アメリカ (1) フランス (1) 韓国 (5) からの留学生
92	定例活動にて留学生との交流		ホームステイ受け入れ 随時	9 (9)	ゲーム、いろいろな国のことばで自己紹介やお話
93	留学生farewell party		1月17日 (予定)	17 (2)	韓国・アメリカの留学生と ゲーム・会食・懇談など
94	あきた国際フェスティバル2010		10月31日	8	秋田県国際交流協会主催 クイズや活動紹介
95	留学生farewell party&Xmas party		12月4日 (予定)	22 (7)	台湾・フランス・モンゴル・韓国の留学生と ゲーム・会食・懇談など

## 大学・高専

No.	事業名	主催団体名	開催時期	参加者数 ( )書きは、 参加留学生数	事業の内容
1	薫風・満点フィールド交流塾加茂ライブ2010	秋田県立大学	8月7～8日	70 (12)	男鹿加茂青砂地域の伝統文化や暮らしの知恵を遊びながら学ぶ
2	高校生と一緒に鳥海登山		8月27日	約300(12)	県立矢島高校との合同登山。
3	由利本荘市との懇談会		9月21日	13 (6)	由利本荘市と観光をテーマに話し合う懇談会。外国人観光客誘致の提言を行う。
4	県立大生観光名所探訪		10月23日	39 (8)	由利本荘市内の観光施設を訪ねることにより、由利本荘市に愛着を持ってもらう。
5	三大学連携事業		11月6日 (予定)	3 (3)	地域の方と一緒に外国料理を作ることにより、異国文化交流を図る。
6	座禅体験		12月21日 (予定)	10	お寺で座禅体験。
7	裸まわりツアー		1月17日 (予定)	10	新山裸参りに参加し、秋田の冬祭りを体験。
8	横手市かまくらツアー		2月14日 (予定)	10	秋田の冬の民俗行事である横手市かまくら祭りに参加
9	秋田市雄和新波地区での農作業等体験活動	国際教養大学	5月9日～ 10月30日	105 (82)	秋田市雄和新波地区の方々と交流。 5月9日の代掻き、5月23日の田植え、6月6日のさなぶり運動会、10月2日の稲刈り、10月22日の脱穀、10月30日の柿もぎ・干し柿作り体験
10	八峰町との国際交流プログラム		5月15日～ 3月5日	累計 (10月1日 現在) 107 (105)	平成19年度から実施している八峰町との国際交流プログラム。八峰町内の子ども園、小学校、中学校を本学学生が訪問し英語授業に参加するなどして、異文化交流を行っている。また、小学校・中学校の児童・生徒が本学を訪問しての交流も行っている。金曜・土曜日と続けて行われる場合は、金曜日に八峰町でホームステイしている。
11	大仙市との国際交流プログラム		5月17日～23年3月 まで	累計 (10月1日 現在) 256 (253)	平成21年度から実施している国際交流プログラム。大仙市内の小・中学校および保育園・幼稚園との異文化交流。大学から留学生を派遣しての交流のほか、本学を小・中学校が訪問しての交流も行っている。
12	男鹿市との国際交流プログラム		5月21・22日、11 月19・20日、1月 13日	累計 (10月1日 現在) 20 (18)	今年5月に協定を結んだ男鹿市との国際交流プログラム。男鹿市内の小中学校での英語交流プログラムに本学学生が参加するほか、男鹿市内の家庭でのホームステイも体験する。1月13日には小学生が本学を訪問予定。
13	鳥海山・蛸満寺		10月16日		蛸満寺を見学後、鳥海ブルーラインで鳥海山5合目まで。16羅漢を見学して帰途。
14	サテライトセンターでのカンパセーションパートナー		毎週土曜日	毎回 2～3名	留学生が英語でのカンパセーションパートナーを務める。(午後3時～6時) また、10月からは中国語および韓国語のカンパセーションセッションも月1回設けている。(午後1時～3時)
15	まほろば唐松薪能		6月5日	26 (71)	大仙市協和の唐松神社で行われた能を観劇。
16	角館・田沢湖バスツアー		5月22日	66 (52)	春の角館での観桜。伝承館や青柳家を見学した後、田沢湖畔を散策。
17	男鹿バスツアー				男鹿半島をめぐるバスツアー。なまはげ館、入道崎などを見学。
18	ノーザンハピネッツ応援ツアー		11月20日		BJリーグの観戦ツアー。
19	なまはげバスツアー		2月13日		ナマハゲ祭りの見学。
20	高杉祭		7月3日4日	全学生	学園祭(地域の市民と、学生との交流を図った。)
21	紅葉狩り	ノースアジア大学	10月29日	留学別科生7 (3) 学部生5 (2)	本学国際交流センター主催。留学生同士の交流を深めるためのレクリエーション。
22	学校の枠を超えた留学生研修	秋田工業高等専門学校	23年1月 (予定)	未定	学校見学、施設見学、工場見学、交歓会 (予定)
23	文化体験事業	秋田大学	6月26日	28 (26)	康楽館見学。
24	留学生交流見学旅行		9月25日～27日	(31)	大阪・京都・奈良を訪問・見学
25	北東北国立3大学外国人留学生合同合宿研修会		12月11日12日	60	弘前大学及び岩手大学の留学生及び日本人学生との交流会 合同合宿研修会を通じて異文化コミュニケーションゲーム・アイスブレイキング、グループ毎の共同作業(ビデオ)の制作・発表を行い、多文化交流を体験する。
26	留学生体験事業「もちつき」		12月22日	50	日本の伝統文化「もちつき」を体験。
27	秋田の行事 体験旅行		23年1月22日	30	秋田の冬の行事を体験(阿仁・森吉の樹氷見学)。
28	外国人留学生 スキー合宿		23年2月19～20日	30	田沢湖スキー場を会場に1泊2日のスキー合宿を実施予定。

# 留学生関係資料



## 住居形態別留学生数 (平成22年10月1日現在)

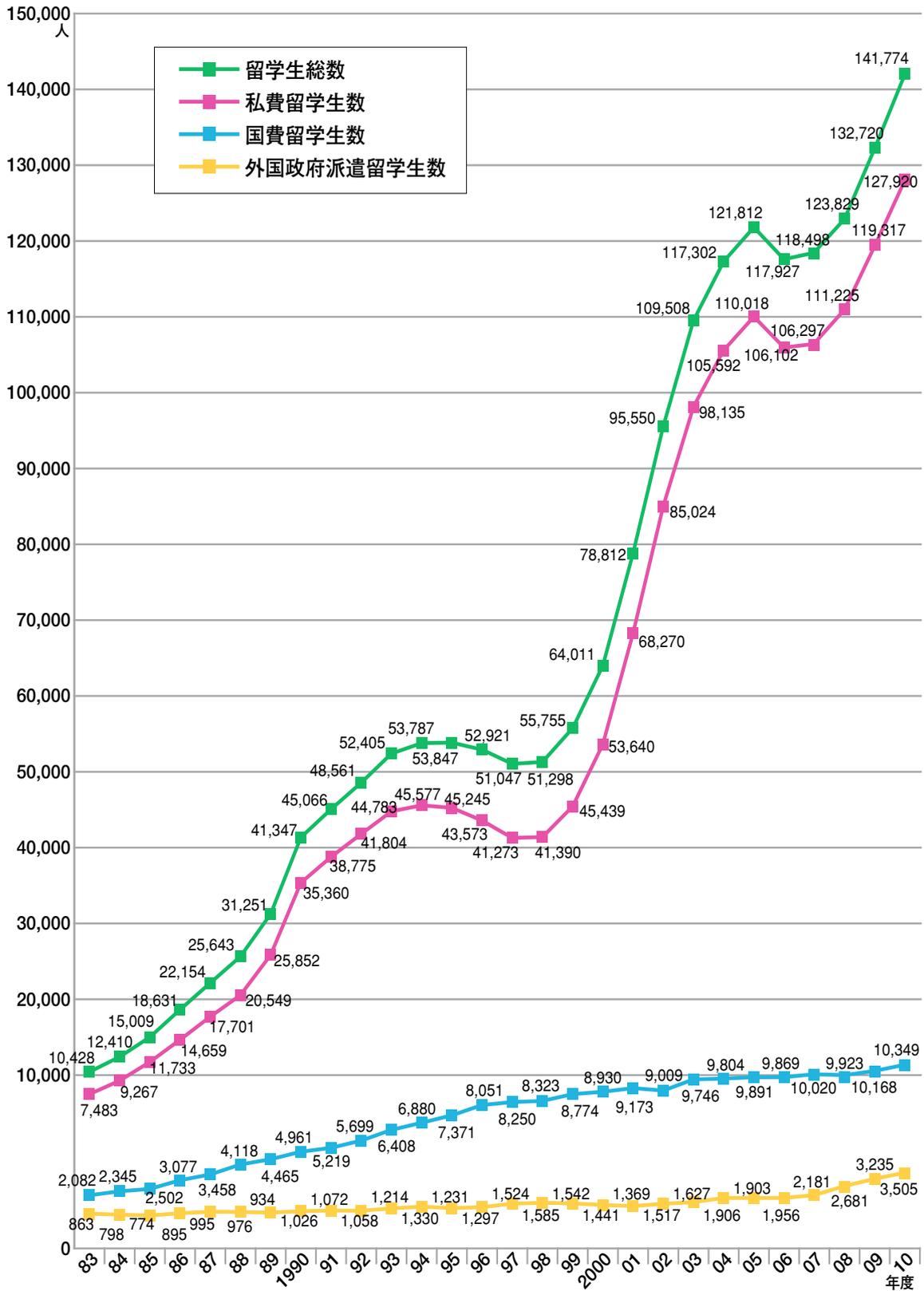
住居別	学校等別	秋田大学	秋田県立大 学	ノースア ジア大学	国際教養 大 学	秋田工業 高等専門 校	秋 田 県	合 計
留学生用宿舎		44 (24)			108 (29)			152 (53)
大学の職員宿舎								
大学等の学生寮				15 (3)	79 (64)			115 (67)
秋田県職員宿舎								
公営住宅		1 (0)						1 (0)
民間下宿・アパート		92 (35)	20 (6)	7 (7)	3 (1)		1 (1)	123 (50)
民間企業の社員寮								
ホームステイ								
その他		7 (3)	2 (1)		5 (4)	10 (3)		24 (11)
合 計		165 (62)	22 (7)	22 (10)	195 (98)	10 (3)	1 (1)	415 (181)

注：( ) 内は内数で女性を示す。

## 秋田県内留学生等の出身国・地域別在籍状況 (平成22年10月1日現在)

地域・国名	機関名等	秋田大学	秋田県立大 学	ノースア ジア大学	国際教養 大 学	秋田工業 高等専門 校	秋 田 県 (海外技術 研修員)	計	地域別 割 合
ア ジ ア	中国	58	16	16	8		1	99	65.5%
	韓国	24	3	4	18			49	
	マレーシア	30			2	5		37	
	モンゴル	4	1		4			9	
	台湾	5			17			22	
	香港				5			5	
	マカオ				1			1	
	シンガポール				2			2	
	ベトナム	21						21	
	カンボジア	1						1	
	インドネシア	5			1	1		7	
	フィリピン	1			4			5	
	ネパール		1					1	
	パキスタン	1						1	
	バングラデシュ	1						1	
	ラオス						2	2	
	タイ	3				5		8	
ミャンマー	1						1		
計		155	21	20	67	8	1	272	
ア フリ カ	ガーナ	1						1	3.1%
	エジプト				2			2	
	南アフリカ	1						1	
	カメルーン					1		1	
	ボツワナ	2						2	
	ザンビア	1			2			3	
	モロッコ				1			1	
	ケニア	1						1	
	ウガンダ					1		1	
計		6	0	0	5	2	0	13	
オ セ ア ニ ア	オーストラリア				1			1	1.5%
	パプアニューギニア	1						1	
	ニュージーランド				2			2	
	トンガ			2				2	
計		1	0	2	3	0	0	6	
北 米	アメリカ	1			68			69	19.8%
	カナダ				11			11	
	メキシコ				2			2	
計		1	0	0	81	0	0	82	
中 南 米	ウルグアイ		1					1	0.5%
	ブラジル	1						1	
計		1	1	0	0	0	0	2	
ヨ ー ロ ッ パ	イギリス				12			12	9.6%
	フランス				7			7	
	ドイツ				6			6	
	スイス				1			1	
	オランダ				2			2	
	ルーマニア				2			2	
	ハンガリー				1			1	
	チェコ				2			2	
	デンマーク							0	
	スウェーデン							0	
	ノルウェー				2			2	
	フィンランド	1						1	
	ベラルーシ							0	
	ロシア				4			4	
計		1	0	0	39	0	0	40	
合 計		165	22	22	195	10	1	415	100%

## 日本全体の留学生数の推移 (各年5月1日現在)



## 出身国（地域）別留学生数（平成22年5月1日現在）

中国・韓国・台湾からの留学生を合わせると全留学生に占める割合は78.8（前年度78.4）%となっている。

国(地域)名	留学生数		構成比		国(地域)名	留学生数		構成比	
中国	86,173人	(79,082)	60.8%	(59.6)	フィリピン	524人	(528)	0.4%	(0.4)
韓国	20,202人	(19,605)	14.2%	(14.8)	イギリス	452人	(427)	0.3%	(0.3)
台湾	5,297人	(5,332)	3.7%	(4.0)	カナダ	358人	(345)	0.3%	(0.3)
ベトナム	3,597人	(3,199)	2.5%	(2.4)	ロシア	358人	(304)	0.3%	(0.2)
マレーシア	2,465人	(2,395)	1.7%	(1.8)	カンボジア	333人	(300)	0.2%	(0.2)
タイ	2,429人	(2,360)	1.7%	(1.8)	ブラジル	324人	(336)	0.2%	(0.3)
アメリカ	2,348人	(2,230)	1.7%	(1.7)	オーストラリア	318人	(331)	0.2%	(0.2)
インドネシア	2,190人	(1,996)	1.5%	(1.5)	エジプト	300人	(329)	0.2%	(0.2)
ネパール	1,829人	(1,628)	1.3%	(1.2)	サウジアラビア	300人	(253)	0.2%	(0.2)
バングラデシュ	1,540人	(1,683)	1.1%	(1.3)	ラオス	275人	(285)	0.2%	(0.2)
モンゴル	1,282人	(1,215)	0.9%	(0.9)	イラン	235人	(218)	0.2%	(0.2)
ミャンマー	1,093人	(1,012)	0.8%	(0.8)	スウェーデン	212人	(182)	0.1%	(0.1)
スリランカ	777人	(934)	0.5%	(0.7)	ウズベキスタン	208人	(223)	0.1%	(0.2)
フランス	705人	(624)	0.5%	(0.5)	シンガポール	199人	(166)	0.1%	(0.1)
ドイツ	554人	(450)	0.4%	(0.3)	その他	4,351人	(4,205)	3.1%	(3.2)
インド	546人	(543)	0.4%	(0.4)	計	141,774人	(132,720)	100.0%	(100.0)

( ) 内は平成21年5月1日現在の数

## 地方別・都道府県別留学生数（平成22年5月1日現在）

(人)

地方名	留学生数	都道府県	留学生数		地方名	留学生数	都道府県	留学生数	
北海道	2,537 [1.8%]	北海道	2,537	(2,173)	近畿	24,598 [17.4%]	三重	1,004	(885)
	(2,173) ([1.6%])						滋賀	477	(432)
東北	4,221 [3.0%] (4,040) ([3.0%])	青森	600	(730)	中国	6,980 [4.9%] (6,472) ([4.9%])	京都	5,896	(5,377)
		岩手	421	(450)			大阪	10,791	(10,576)
		宮城	2,140	(1,945)			兵庫	4,637	(4,240)
		秋田	351	(297)			奈良	1,486	(1,304)
		山形	242	(222)			和歌山	307	(271)
関東	68,095 [48.0%] (65,008) ([49.0%])	茨城	2,714	(2,519)	四国	1,457 [1.0%] (1,392) ([1.0%])	鳥取	202	(188)
		栃木	1,085	(1,126)			島根	218	(231)
		群馬	1,756	(1,464)			岡山	2,628	(2,535)
		埼玉	6,153	(5,951)			広島	2,538	(2,301)
		千葉	6,054	(5,790)			山口	1,394	(1,217)
		東京	45,617	(43,775)			九州	18,057 [12.7%] (15,674) ([11.8%])	徳島
神奈川	4,716	(4,383)	香川	411	(366)				
中部	15,829 [11.2%] (14,876) ([11.2%])	新潟	1,597	(1,394)	愛媛	520			(531)
		富山	606	(599)	高知	171			(161)
		石川	1,804	(1,576)	福岡	9,665			(7,578)
		福井	339	(340)	佐賀	404			(406)
		山梨	888	(785)	長崎	1,653	(1,655)		
		長野	674	(618)	熊本	756	(793)		
		岐阜	1,439	(1,450)	大分	4,198	(4,147)		
静岡	1,709	(1,643)	宮崎	168	(148)				
愛知	6,773	(6,471)	鹿児島	644	(413)				
						沖縄	569	(534)	
					計		141,774 [100.0%] (132,720 [100.0%])		

( ) 内は平成21年5月1日現在の数

# 平成22年度秋田地域留学生等交流推進会議議事要旨

日 時 平成22年12月17日（金） 15：30～16：40

会 場 カレッジプラザ大講義室

議事に先立ち、推進会議議長の吉村 昇秋田大学長から挨拶の後、委員の自己紹介があった。

本年度の推進会議は、報告事項4件、協議事項2件について審議を行った。

報告事項として、下記4項目について報告があった。

- ・平成22年度秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会実施報告
- ・平成22年度学校等別外国人留学生受入数・留学生等交流推進事業の実施状況
- ・秋田地域における国際交流団体等の事業実施状況
- ・平成22年度留学生地域交流事業「秋田の農家民泊 in 西木町 ―持続的交流の展開―」の実施

協議事項として、下記の2件について審議を行った。

- ・秋田地域留学生等交流推進会議資金貸与制度実施要項の一部改正（案）について  
秋田地域留学生等交流推進会議構成員である大学・高専に在学する私費外国人留学生が必要とする資金を貸与し、生活援助を図ることを目的とし、現在の要項に基づいて貸与を行っているが、実務と乖離している部分があり、返済方法・返済期限・返済猶予に関する文言を見直し、修正を行いたい旨説明があり、審議の結果、了承された。
- ・平成23年度における秋田地域留学生等交流推進会議の事業計画について  
事業計画（案）について資料を基に説明があり、原案どおり了承された。

また、日本学生支援機構東北支部長から、財団法人中島国際交流財団助成による平成22年度留学生地域交流事業選考結果と状況について資料に基づいて説明があった。また、事業仕分けにより、留学生の宿舎である国際交流会館が平成24年3月で廃止に決定したこと等、留学生支援事業が厳しい状況であることなどの報告があった。

引き続き、秋田ビューホテル1階ピーナッツギャラリーにて開催した留学生との懇談会では、吉村推進会議議長の挨拶の後、参加留学生から秋田での生活や自分の専攻等スピーチが披露され、終始和やかな雰囲気の中で行われ、盛会裏に終了した。

# 平成22年度秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会議事要旨

日 時：平成22年11月15日（月）16：00～17：00

場 所：秋田大学一般教育1号館会議室（2F）

## (1) 報告事項

### ① 平成22年度学校等別外国人留学生受入数等について

事務局から、資料1により報告があった。

### ② 秋田地域における国際交流団体・外国人留学生等交流推進事業の活動について

事務局から資料2の説明があり、各高等教育機関、秋田県から報告があった。

#### 【秋田県】

資料に基づき次の通り事業報告があった。海外技術研修職員受入事業については中国甘肅省から1名を受け入れ、秋田大学と協力しながら研修を進めていること、また、「ホームステイ受入支援事業～秋田のファミリー～」については県内に来ている留学生を対象に秋田の家庭に短期間ホームステイする事業であるが、受入家庭を掘り起こしつつ、マッチングをはかり、ホームステイ受入支援事業を進めていることの報告があった。また、「南米架け橋事業」については、財源的にはクレア自治体国際化協会から信任を得て今年度ブラジルから研修生を1名受入れている。この研修生については国際交流協会で日本語の授業を受けた後、国際教養大学で受入れる予定になっている。環日本海圏留学生秋田発見体験ツアー事業については、秋田県内の留学生を県内の文化・観光地へ案内し、同世代との交流と理解を深める事業をしていることの報告があった。

#### 【秋田県立大学】

学内の様々な事業に留学生が参加したものが主になり、例えば文部科学省G Pで採択されている「薫風・満点フィールド交流塾」に留学生も参加した。また、高校生と一緒に鳥海登山をしたり、由利本荘市において観光をテーマに話し合うことに取り組んだ。今後、他大学と連携しての事業への参加も予定している。

#### 【国際教養大学】

国際交流事業としては大きく分けて2つ行い、留学生を中心に県内の諸地域へ派遣し交流する事業と、バスツアーで秋田県内を巡るイベントを企画している。八峰町・大仙市・男鹿市と国際交流に関する協定を結び、それぞれの市町村の小学校・中学校・幼稚園等で交流を進めている。八峰町は平成19年度から、大仙市は平成21年度から、男鹿市は本年度から交流を開始している。その他として、秋田市雄和新波地区で田植え・稲刈り・干し柿作り等農業体験をしていること、また今後もこの地域での文化体験を予定しているとのことであった。バスツアーについては大学で観光用に企画していることが報告された。

また、秋田市の明徳館ビルの2階にサテライトセンターを設け、毎週土曜日にネイティブの留学生と英会話を楽しむという趣旨で「カンパセーションパートナー（事業名）」を企画し開催している。通常2名の留学生をアルバイトとして雇い、10月からは中国語、韓国語での対話も企画し、好評を得ていることの報告があった。

#### 【秋田工業高等専門学校】

東北地区の高専間で、学校の枠を超えた留学研修を実施している。今年度は福島高専が当番校で来年の1月に留学生間の交流を予定している。

また、提携しているフランスのルールA技術短期大学から今年度1名を受け入れ、3名の学生を交換留学生として派遣していることが報告された。

#### 【秋田大学】

現在、本学の大学間協定校は、前年同期から8大学が加わり、16カ国・地域33大学になったことの報告があった。さらに数大学と協定締結の準備を進めている。また、学部間協定校は現在、9カ国・地域17学部等と締結している。国内外の広報活動の充実によ

りその効果が現れてきていると思われる。

留学生交流見学旅行を9月に実施し、大阪・奈良・京都を訪れ見学した。31名が参加し、昨年度は新型コロナウイルス流行のため中止した経緯もあり2年ぶりの実施であった。また、1月に予定している「秋田の行事」についても他大学・高専にも参加を呼びかけるため準備をしていること報告があった。

### ③ 平成22年度留学生地域交流地域交流事業「秋田の農家民泊 in 西木町一持続的交流の展開」の実施報告について

事務局から、資料3より本推進会議主催で財団法人中島記念国際交流財団助成事業に応募し採択された助成金を基に、第1回目の「農業体験ツアー」を本年10月16・17日に、第2回目の「収穫感謝祭」を11月6日に仙北市西木町で実施した旨の報告があった。

## (2) 協議事項

### ① 秋田地域留学生等交流推進会議資金貸与制度実施要項の一部改正(案)について

事務局より資料5により、実施要項の改正について次の通り説明があった。本制度は、秋田地域留学生等推進会議構成員である大学・高専に在学する私費外国人留学生が必要とする資金を貸与し、生活援助を図ることを目的としている。

今年度は、秋田大学の学生4名に対して延べ35万円を貸与している。平成13年度からは現在の要項に基づいて貸与を実施しているが、実務面での取り扱いにおいて不明確な点があるため、要項を一部改正したい。これまでの貸与内容を確認した結果、一括払や返済猶予を認めている事例があるにもかかわらず、現行の実施要項の7（返済の内容）には一括払いと返済猶予を認める文言が無いため、内容と実際の対応が異なっている。今回の改正で8（返済方法）と9（返済の猶予）を追加し、一括払と返済猶予に関する取り扱いを明確にし、併せて、他の箇所でも文言等の修正を行うこととしたい旨説明があった。審議の結果、原案のとおり了承され、今後は推進会議で審議することとなる旨了承された。

### ② 平成23年度「地域留学生交流推進会議」事業計画書(案)について

資料6を基に事業計画について説明があり、原案の通り了承された。

なお、補足として各大学の負担金の額については、昨年度の会議で協議した申し合わせのとおり、ノースアジア大学80,000円、秋田県立大学80,000円、国際教養大学80,000円、秋田大学260,000円をそれぞれ負担していることの報告があった。

### ③ 平成22年度推進会議の開催日程及び提出議題等について

平成22年度推進会議の開催日程及び提出議題について資料7により説明があり、了承された。

### ④ その他

議長から来年度の（財）中島記念国際交流事業団助成による留学生地域交流事業の募集について、資料8を参考にアイデアがあれば後日事務局にご提案いただきたい旨の協力依頼があった。

## (3) その他

本会議は12月17日（金）15：30から「カレッジプラザ」で開催することの連絡があった。また、会議終了後、秋田ビューホテルで17：30からは留学生を交えての交流パーティーがあり、今年度から留学生に一人当たり1,000円の会費を負担があるが、留学生への周知と参加の協力願いたいことの依頼があった。

# 秋田地域留学生等交流推進会議要項

## (設置及び目的)

第1 秋田地域における留学生等の受入れの促進及び交流活動の推進を図るため、秋田地域留学生等交流推進会議（以下「推進会議」という。）を置く。

## (事業)

第2 推進会議は、第1に掲げる目的を達成するため、秋田地域における留学生等の受入れの促進及び交流活動の推進に関する重要事項について協議する。

## (委員)

第3 推進会議は、次に掲げる者をもって組織する。  
一 秋田地域の関係大学等の長  
二 秋田地域の国・地方公共団体の関係機関、経済団体、国際交流関係団体の長又は代表者 各1名  
三 学識経験者 若干名  
2 委員は、議長が委嘱する。

## (役員及び役員の職務)

第4 推進会議に議長及び副議長を置く。  
2 議長は、秋田大学長をもって充て、副議長は、推進会議の議を経て議長が委嘱する。  
3 議長は、推進会議を招集する。  
4 副議長は、議長を補佐し、議長に事故あるときは、議長の職務を代行する。

## (顧問)

第5 推進会議に顧問を若干名置くことができる。  
2 顧問は、推進会議の議を経て議長が委嘱する。

3 顧問は、推進会議の運営及び事業に関し、必要に応じて助言する。

## (委員以外の者の出席)

第6 議長が必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させることができる。

## (運営委員会)

第7 推進会議の円滑な運営を図るため、運営委員会を置く。  
2 運営委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

## (事務)

第8 推進会議の事務は、秋田大学国際交流課において行う。

## (雑則)

第9 この要項に定めるもののほか、推進会議に関し必要な事項は、別に定める。

### 附 則

この要項は、平成元年10月17日から実施する。

### 附 則

この要項は、平成14年9月26日から実施する。

### 附 則

この要項は、平成17年2月28日から実施する。

### 附 則

この要項は、平成19年4月1日から実施する。

### 附 則

この要項は、平成21年12月18日から実施し、平成21年4月1日から適用する。

# 秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会要項

第1 秋田地域留学生等交流推進会議要項（以下「要項」という。）第7第2項の規定に基づき推進会議運営委員会（以下「運営委員会」という。）に関する事項を次のとおり定める。

第2 運営委員会の委員は、次に掲げる者をもって組織する。  
一 要項第3第1項第1号の各大学等から選出された者 各1名  
二 要項第3第1項第2号の機関等から選出された者 各1名  
三 要項第3第1項第3号の学識経験者から 若干名  
四 その他推進会議が必要と認められた者 若干名  
2 委員は、推進会議議長が委嘱する。

第3 運営委員会は、留学生等の交流推進に関し必要な事項について審議する。

第4 運営委員会に運営委員長を置く。

2 委員長は、当分の間、秋田大学国際交流センター長をもって充てる。

3 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

第5 運営委員会の事務は、秋田大学国際交流課において行う。

### 附 則

この要項は、平成元年10月17日から実施する。

### 附 則

この要項は、平成11年10月27日から実施する。

### 附 則

この要項は、平成14年9月26日から実施する。

### 附 則

この要項は、平成17年2月28日から実施する。

### 附 則

この要項は、平成19年4月1日から実施する。

### 附 則

この要項は、平成20年12月19日から実施し、平成20年2月13日から適用する。

### 附 則

この要項は、平成21年12月18日から実施し、平成21年4月1日から適用する。

## 秋田地域留学生等交流推進会議の事業費に関する申し合わせ

平成21年12月18日

### (趣 旨)

1. 秋田地域留学生等交流推進会議要項第9の規定に基づき、秋田地域留学生等交流推進会議（以下「推進会議」という。）の事業費に関して、次のとおり定める。

### (事業費)

2. 推進会議の運営に必要な経費は、次に定める大学が拠出する負担金をもって充てる。

大 学 名	負担金
ノースアジア大学	80,000円
秋田県立大学	80,000円
国際教養大学	80,000円
秋田大学	260,000円

### (事業年度)

3. 推進会議の事業年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

### (負担金の納入)

4. 負担金の納入は年1回とし、納入に係る事務は秋田大学国際交流課において行う。

### 附 則

この申し合わせは、平成22年4月1日から実施する。

## 秋田地域留学生等交流推進会議構成員名簿

平成22年12月17日現在

区 分	所 属	職 名	氏 名
国・地方公共団体	仙台入国管理局秋田出張所	所 長	横 山 讓 司
	秋田県	知 事	佐 竹 敬 久
	秋田県市長会	会 長	穂 積 志 正
	秋田県町村会	会 長	齋 藤 積 正
経済団体	秋田市	市 長	穂 積 志 正
	(社) 秋田県経営者協会	会 長	新 開 卓 郎
	秋田県商工会議所連合会	会 長	渡 邊 靖 彦
	秋田県中小企業団体中央会	会 長	塩 田 謙 三
	秋田県商工会連合会	会 長	村 岡 淑 郎
	秋田県農業協同組合中央会	会 長	木 村 一 男
国際交流関係団体	(社) 秋田青年会議所	理 事 長	川 口 雅 丈
	秋田ロータリークラブ	会 員	江 畠 清 治
	秋田国際交流団体連絡会	会 長	佐々木 正 光
学識経験者	独立行政法人日本学生支援機構	東北支部長	鈴 木 研 一
大学・高専	秋田魁新報社	相 談 役	佐 藤 暢 男
	ノースアジア大学	学 長	小 泉 健 健
	秋田栄養短期大学	学 長	小 泉 健 健
	聖霊女子短期大学	学 長	平 垣 ヨシ子
	聖園学園短期大学	学 長	青 木 光 子
	秋田県立大学	学 長	小 林 俊 一
	国際教養大学	学 長	中 嶋 嶺 雄
	秋田工業高等専門学校	校 長	山 田 宗 慶
	秋田看護福祉大学	学 長	田 中 禮 子
	秋田大学	学 長	吉 村 昇

## 秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会委員名簿

平成22年12月17日現在

区 分	所 属	職 名	氏 名
国・地方公共団体	仙台入国管理局秋田出張所	所 長	横 山 讓 司
	秋田県企画振興部	学術国際局国際課	妹 尾 明
	秋田県市長会	事務局長	鎌 田 潔
	秋田県町村会	事務局長	関 正
経済団体	秋田市企画調整部	企画調整課長	工 藤 喜根男
	(社) 秋田県経営者協会	事務局長	高 橋 正 悦
	秋田県商工会議所連合会	常任幹事	岩 本 孝 一
	秋田県中小企業団体中央会	事務局長	高 橋 公 悦
	秋田県商工会連合会	専務理事	高 橋 敏 生
	秋田県農業協同組合中央会	常務理事	佐 藤 実
国際交流関係団体	(社) 秋田青年会議所	専務理事	進 藤 史 明
	秋田ロータリークラブ	会 員	江 畠 清 彦
	秋田国際交流団体連絡会	事務局長	石 塚 則 夫
学識経験者	独立行政法人日本学生支援機構	東北支部長	鈴 木 研 一
大学・高専	秋田魁新報社	専務取締役	沓 澤 伸 義
	ノースアジア大学	留学生別科長	白 川 欽 哉
	秋田栄養短期大学	栄養学科長	廣 川 忠 男
	聖霊女子短期大学	学生部長	三 森 一 司
	聖園学園短期大学	学生部長	腰 山 豊
	秋田県立大学	学生部長	森 宏 一
	国際教養大学	学生部長	森 園 浩 一
	秋田工業高等専門学校	副校長(教務主事)	対 馬 雅 己
	秋田看護福祉大学	学生委員長	柴 田 博
	秋田大学	国際交流センター長	榎 本 克 彦

# 秋田地域留学生等交流推進会議運営による 資金貸与制度

この制度は、県内の大学・短大・高専に在籍する留学生の皆さんが、民間アパート等へ入居する際に必要となる予約金や、病気や災害などで多額のお金を一時的に必要とする場合に、経済的に困難と認められれば無利子で貸付を受けられる制度です。貸付金は、一人あたり10万円を限度としており、貸付後の翌月から10ヶ月以内の月払いで返済することになっています。また、困っている留学生から相談を受けた場合にも支援窓口関係者からご説明くださるようよろしくお願いします。

## 秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度実施要項

1. 目的  
この制度は、秋田地域留学生等交流推進会議構成員である大学・高専（以下「大学等」という。）に在学する私費外国人留学生が民間宿舎へ入居する際の予約金及び外国人留学生が緊急に必要とする資金について、申請に基づき貸与を行い、生活援助を図ることを目的とする。
2. 内容  
民間宿舎へ入居する際の予約金とは、権利金、礼金及び敷金を含み、緊急に必要とする資金とは、疾病、災害等により一時的に必要とする多額の経費とする。
3. 貸与金額  
貸与金額は、10,000円を単位とし、100,000円を限度とする。なお、利息は課さないものとする。
4. 申請  
貸与を必要とする者は、貸付金申請書（別紙様式1）を、秋田地域留学生等交流推進会議議長に提出するものとする。
5. 選考  
本人から提出された申請書の経済状況等を考慮し、秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会委員長が選考する。
6. 貸与  
貸与は申請者が所属する大学等の長を通じて行い、貸与を受けるにあたって、借用証書（別紙様式2）を秋田地域留学生等交流推進会議議長に提出するものとする。
7. 返済期限  
貸与を受けた者は、貸与を受けた月の翌月から起算して10か月以内に返済しなければならない。ただし、卒業又は修了等により外国人留学生の身分を失う場合は、身分喪失までに返済するものとする。
8. 返済方法  
貸付金の返済方法は、一括払い及び分割払い（10回を限度）とし、分割払いについては、いつでも繰り上げて返済することができるものとする。
9. 返済の猶予  
貸与を受けた者が、疾病、災害等やむを得ない事由により返済が困難になった場合は、返済猶予申請書（別紙様式3）を提出することにより返済を猶予することができる。ただし、その場合であっても、卒業又は修了等により外国人留学生の身分を失う場合は、身分喪失までに返済するものとする。
10. 事務  
貸与に関する事務は、秋田地域留学生等交流推進会議事務局である秋田大学国際交流課が行う。
11. その他  
この要項に定めるもののほか、貸与に関する必要な事項は、秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会委員長が別に定めることができる。

### 附 則

1. この要項は、平成13年11月28日から実施する。
2. 秋田地域留学生等交流推進会議宿舎予約金貸与制度実施要項及び秋田地域留学生等交流推進会議外国人留学生緊急資金貸付制度実施要項は廃止する。

### 附 則

この要項は、平成17年12月15日から実施し、平成17年4月1日から適用する。

### 附 則

この要項は、平成19年4月1日から実施する。

### 附 則

この要項は、平成22年12月17日から実施する。

(別紙様式1)  
秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度 貸付金申請書

申請金額・事由 1. 予約金 2. 資金 _____円	
返済予定期間	平成 年 月 日～平成 年 月 日
返済方法	一括返済 _____円 × _____回 分割返済 _____円 × _____回 _____円 × _____回
指導教員等の意見	(所属学部、研究科等) (職名・氏名) ㊟
秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度実施要項により、貸付を受けたので申請いたします。	
平成 年 月 日	
秋田地域留学生等交流推進会議議長 殿	
申請者	(所属大学等、学部、研究科等) ※学年も記入してください。
(氏名)	㊟

(別紙様式2)  
借 用 証 書

借用金額 金 \_\_\_\_\_円

上記金額を秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度による貸付金として、借用しました。  
については、秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度実施要項に従い、下記のとおり滞りなく返済いたします。

記

返済予定期間	平成 年 月 日～平成 年 月 日
返済方法	一括返済 _____円 × _____回 分割返済 _____円 × _____回 _____円 × _____回

平成 年 月 日

秋田地域留学生等交流推進会議議長 殿

借受人  
(所属大学等、学部、研究科等) ※学年も記入してください。

(氏名) ㊟

(別紙様式3)  
秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度貸付金 返済猶予申請書

猶予申請事由	
返済猶予金額	円
返済猶予期間	平成 年 月 日～平成 年 月 日
指導教員等の意見	(所属学部、研究科等) (職名・氏名) ㊟
秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度実施要項により、貸付金の返済を猶予していただきましたので申請いたします。	
平成 年 月 日	
秋田地域留学生等交流推進会議議長 殿	
申請者	(所属大学等、学部、研究科等) ※学年も記入してください。
(氏名)	㊟

## ■■■ 推進会議へのご意見や情報提供について ■■■

本推進会議は、秋田県内における留学生の受け入れや、交流活動を含めた国際交流の推進を図るために組織されています。その活動状況は、毎年発行する本誌「あきた留学生交流」（毎年3月上旬発行）を通して関係の皆さまにお伝えしております。お読みいただいてのご感想や本推進会議に対するご意見がございましたら、事務局までどしどしお寄せください。

また、留学生をはじめとする外国人の皆さんやそのご家族の方々は、地域の皆さまからのいろいろな情報の提供を望んでいます。国際交流に関するイベントの実施、その他日常生活に関するささやかな情報でも結構ですので、事務局までお寄せくださるよう協力願います。



「秋田の農家民泊 in 西木町—持続的交流の展開—」  
では仙北市西木町の農家のみなさんと交流を深めた。

## あきた留学生交流 第23号

(2011.3発行)

編集・発行 秋田地域留学生等交流推進会議事務局  
(秋田大学国際交流課)

〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号

TEL (018) 889-2856 FAX (018) 889-3012

E-mail kokusai@jimukita-u.ac.jp

